

# RALLY<sup>+</sup>PLUS

## WRC Round.1 Rallye Monte Carlo

怒濤の5日間  
伝統のラリー、復活



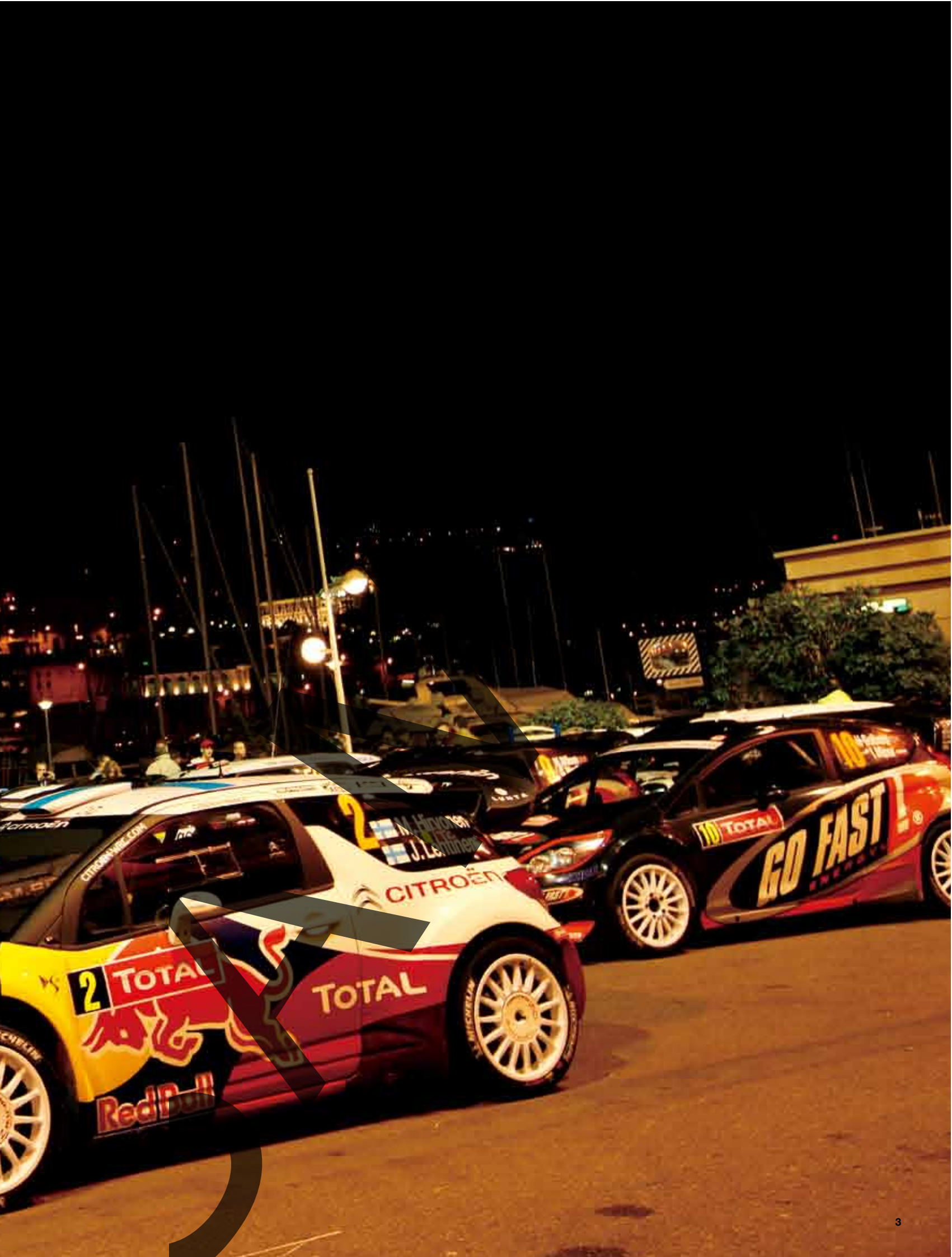


# WRC Round.01 Rallye Monte Carlo

17-22 January 2012

束の間のシーズンオフを経て、彼らは再び集まった  
新たなカラーリングに彩られたマシン  
新たなレーシングスーツに身を包むドライバー  
誰もがシーズンの始まりに心を躍らせる  
モンテカルロがWRCカレンダーに名を連ねるのは実に4年ぶりだ  
土曜深夜、名物チュリニ峠のナイトステージを走り終えて束の間の休息  
残すは明日の最終ステージのみ——









1 タイヤ選択を見事的中させ、デイ1にして大量のリードを築いたセバスチャン・ローブ。18ステージ中、実に9つものステージでトップタイムをたたき出した。終わってみれば2番手MINIのダニ・ソルドには2分以上の差をつけて文句なしの優勝。2 そのソルドは初日にミスを犯しフロントをヒットしてしまう。タイムロスで出遅れるも、それ以降は危なげない走りでも上位に食い込み、3位のベター・ソルベルグと順位争いを展開した。ローブには至らなかったものの、最終的に2位で表彰台フィニッシュ。マシンへの手応えもあり、表情は明るい。3 ローブ、ソルド、ソルベルグという、ひと昔前にはよく見られたトリオのシャンパンファイト。今季は何度かこういうシーンが見られそうだ。

1

N.Kobayashi

## WRC Round.01 Rallye Monte Carlo

17-22 January 2012

第80回という節目の大会を迎えたラリーモンテカルロ。明暗を分けたポイントとなったのは、やはりタイヤ選択だった。ひと筋縄ではいかないフランスアルプスの難しさを、出場したドライバー全員がいやというほど思い知ることとなった。そんななか強さが光ったのは、やはり王者セバスチャン・ローブ。パワーステージも制し、フルポイントマークした。選手権9連覇に向けて、早くもフルスロットル。



3

N.Kobayashi



4



CITROËN

N.Kobayashi



4

N.Kobayashi



7

4 モナコの背後に広がるステージに向かうダニ・ソルド。九十九折りは観客のクルマでいっぱい。5 シトロエンに移籍したヒルボネンは序盤プレーキトラブルもあり、トップグループのペースについていけない場面もみられた。後半は徐々に盛り返し、3度のSSベストをマーク。ソルベルグに次ぐ4位でフィニッシュ。6 チュリニを攻めるベター。この日は4本のステージ中3本でベストを刻むなど猛然とスパートを見せた。7 フィエスタを駆るオット・タナクをサポートするマルコ・マルティンもフォードのサービスに登場。かつての僚友、クリスチャン・ロリオーとなにやら談笑。





8表彰式では音楽隊が国歌などを演奏。この音楽隊は、観光の目玉ともなっている衛兵交代式にも登場。9往年のモンテカルロを制したクラシックMiniの再現とはいかなかったが、プロドライブとしてはソルドの活躍にビエール・カンバーナの完走と、まずまずの結果が。10MINIの2台目をドライブしたカンバーナ。パワーステージでパワステのトラブルに見舞われるも、自己のWRCベストリザルトとなる7位でフィニッシュを果たした。11堂々6位でゴールしたフランソワ・テルケール。今もってなお衰えぬ速さを示した。



12ブレーキを赤熱させながらチュリニを駆け抜けるエフゲニー・ノビコフ。「コンディションが次々変わる難しいラリーだったけど走り切れてよかった」と5位フィニッシュ。13ラリーフィニッシュのために、白バイに先導されてモナコ王宮前へと姿を現したローブ。これでラリーモンテカルロ6勝目。14タイヤチョイスの成功もあり、シュコダ・ファビアS2000で驚異的な速さを示したセバスチャン・オジエだったが、SS10でアクシデントによりリタイア。15VWの2台目はケビン・アプリング。総合12位、S2000勢のトップで完走を果たした。今シーズンはアンドレアス・ミケルセンと交代で出場することになっている。





# Rallye Mont

Winner's Talk

## セバスチャン・ローブ

● *Sebastien Loeb*

### この勝利の意味は大きい 幸先のいいスタートが切れた

最後のパワーステージではとにかくプッシュすると決めていたんだ。ここでの3点はタイトル争いを考えた時に大きいからね。

得点のことは置いておいても、ラリーモンテカルロに勝てて、とてもうれしく思っているよ。ここで勝つことは僕にとって特別な意味を持っている。どこへ行ってもたくさんのサポーターたちが僕らを応援してくれるし、僕も彼らの気持ちに応えたいと思っている。2番手のダニ・ソルドには大きなギャップを築いていたけれど、簡単に勝てたとは少しも思っていないよ。路面や天候の変化に対しては持てる力のすべてを使って対処した。長い間WRCを戦ってきて、5種類ものタイヤチョイスがあったのは初めてだったけれど、状況にマッチした選択ができたのはチームのおかげだよ。

マシンについては文句のつけようがないね。完璧と言ってもいいくらいだ。スタートから思いどおりに動いてくれたし、すぐがいいリズムを見つけることができた。長いシーズンの始まりとしては、これ以上ないくらいのスタートだ！

ローブは、ラリー序盤でラトバラに首位を奪われたものの、ラトバラが消えたSS4以降は首位を一度も譲らずにモンテカルロ6勝目。

N Kobayashi





# eCarlo

新たにエンジンの内部部品に改良を加えたDS3 WRC。ローブは18SS中9度のベストタイムを出すなど完成度の高さを見せた。



# Rally Report

[ラリーレポート]

## 3ワークス激突の2012シーズンが幕開け 久々のモンテカルロをローブが大勝

N.Kobayashi



現代のモンテマイスター、ローブを擁するシトロエン陣営は難コンディション下でもタイヤ選択で大きく外すことなく、確実なチョイスを重ね08年以來の開催となるWRCのモンテを制した。

### Day 0

#### ラリー新時代が 伝統の一戦で幕開け

2012年のWRC開幕戦となるラリーモンテカルロが1月17日(火)、フランス東部のバランスでスタート。今季WRCにはシトロエン、フォードに加えMINIもマニュファクチャラーとして登録。MINIに関してはプロドライブの資金不足によりワークス登録が危

ぶまれたが、セカンドドライバーをラリーごとに変更し、資金持ち込みのプライベートをノミネートするという方法で落ち着いた。

優勝候補の筆頭はシトロエンのセバスチャン・ローブ。8年連続世界王者は5回のモンテカルロ優勝経験を誇る。そのローブをサポートするのは、フォードから移籍したミッコ・ヒルボネン。ヒルボネンが抜けたフォードは、ヤリ・マティ・ラトバラがエースに昇格。ラトバラは昨年、ヒルボネンを優先しわずか1勝に終わった。しかし、今季はチームを背負いタイトルを目指す。そのラトバラを支援

するのはベター・ソルベルグ。「ラトバラをサポートしマニュファクチャラーズタイトル獲得を目指す」と語るが、久しぶりの優勝こそが彼の真のターゲットだ。

以上3ワークスに加え、フォードのサテライトチーム「Mスポーツ・フォード」からオット・タナクとエフゲニー・ノビコフの若手ふたりがノミネート。MINIのサテライトチーム「アルミンド・アラウジョ・ワールドラリーチーム」からアラウジョが、「パルメリンハ・ラリー」からパウロ・ノブレが年間出場する。「カタル・ワールドラリーチーム」



のナッサー・アル・アティヤはダカールラリー出場のため今大会を欠場した。

# Day 1

## 特殊なタイヤ装着が成功もラトバラは早々に離脱

ラリーは18日の水曜日、競技初日としてバランス西南の山岳エリアで行なわれた。2本のステージをループする4SSは、最初の1本目は部分的に凍結しているが全体的にはドライ。2本目は雪が多く残る路面が10kmほど続く。そのため各チームともタイヤチョイスに頭を悩ませた。

今回選択できるタイヤは、パターン入りのスリックタイプがハード、ソフト、そして新たに加わったスーパーソフトの3種類。降雪路面用は、細かいサイブが刻まれたスノーと、それに短いピンをアウト側に埋め込んだスタッドの2種類。1台につき計84本が用意され、そのうち使用できるのは45本のみ。また、一度使ったタイヤはたとえ山が残っていても再使用できず、タイヤ交換の際は必ず新品を装着および搭載しなければならない。

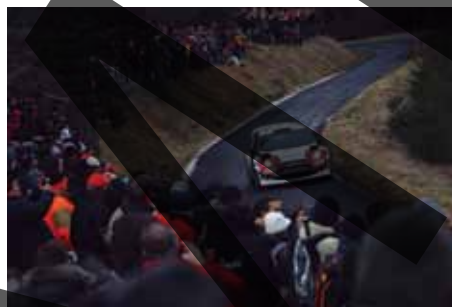
SS1での正解はソフト4本を選んだシトロエンとMINIだった。路面はほとんどがドライで、スーパーソフト4本のフォード勢はタイムが伸びずラトバラがベストから22.2秒遅れの4位、ペターが34.4秒遅れの5位に沈んだ。ベストタイムはローブ、2位は1



打倒シトロエンを目指すフォードは、速さが持ち味のラトバラとそれを支えるベテラン、ペターのコンビとなった。



フォードのセカンドチーム、Mスポーツからタナクがノミネートを受け出場。経験を積みながら8位でフィニッシュ。



Mスポーツのもう一台はノビコワ。タナク同様、「学びながらの走行」でヒルボネンに次ぐ5位でラリーを終えた。



S2000でWRカー勢を凌ぐスピードを披露し、ラリー序盤を大いに盛り上げたオジエだったが、早々と戦列を去った。

### ITINERARY

#### LEG1 2012年1月18日 (水)

SS	SS/サービス名	SS距離	先頭走者時刻
0	スタート レグ1 (VALENCE)		8:00
SS1	LE MOULINON-ANTRAIGUES	36.87km	9:03
SS2	BURZET-ST MARTIAL	30.48km	10:21
2A	テクニカルエリア&リグループイン		12:31
2B	テクニカルエリア&リグループアウト/サービスイン		12:46
	サービスA (VALENCE)	30分	
2C	サービスアウト		13:16
SS3	LE MOULINON-ANTRAIGUES	36.87km	14:21
SS4	BURZET-ST MARTIAL	30.48km	15:39
4A	バルクフェルメ&テクニカルエリアイン		17:49
4B	バルクフェルメアウト&サービスイン		17:52
	フレキシサービスB (VALENCE)	45分	
4C	サービスアウト/バルクフェルメイン		
	全車バルクフェルメイン時刻		21:30

#### LEG2 2012年1月18日 (水)

SS	SS/サービス名	SS距離	先頭走者時刻
4D	スタート レグ2 (VALENCE)		7:55
	サービスC (VALENCE)	15分	
4E	サービスアウト		8:10
SS5	LABATIE D'ANDAURE-LALOUVESC	19.00km	9:33
SS6	ST BONNET-ST JULIEN MOLHESABATE-ST BONNET	25.22km	10:14
SS7	LAMASTRE-GILHOC-ALBOUSSIERE	21.66km	11:37
7A	テクニカルエリア&リグループイン		12:42
7B	テクニカルエリア&リグループアウト/サービスイン		12:57
	サービスD (VALENCE)	30分	
7C	サービスアウト		13:27
SS8	LABATIE D'ANDAURE-LALOUVESC	19.00km	14:50
SS9	ST BONNET-ST JULIEN MOLHESABATE-ST BONNET	25.22km	15:31
SS10	LAMASTRE-GILHOC-ALBOUSSIERE	21.66km	16:54
10A	バルクフェルメ&テクニカルエリアイン		17:59
10B	バルクフェルメアウト&サービスイン		18:02
	フレキシサービスE (VALENCE)	45分	
10C	サービスアウト/バルクフェルメイン		
	全車バルクフェルメイン時刻		21:30

#### LEG3 2012年1月18日 (水)

SS	SS/サービス名	SS距離	先頭走者時刻
10D	スタート レグ3 (VALENCE)		8:44
	サービスF (VALENCE)	15分	
10E	サービスアウト		8:59
SS11	ST JEAN EN ROYANS-FONT D'URLE	23.28km	10:02
SS12	CIMETIERE DE VASSIEUX-COL DE GAUDISSART	24.13km	10:43
12A	テクニカルエリア&リグループイン		12:08
12B	テクニカルエリア&リグループアウト/サービスイン		12:23
	サービスG (VALENCE)	30分	
12C	サービスアウト		12:53
SS13	MONTAUBAN S/ OUVVEE- EYGALAVES	29.89km	15:11
13A	テクニカルエリアイン		19:56
13B	テクニカルエリアアウト/バルクフェルメ イン (MONACO)		19:59

#### LEG4 2012年1月18日 (水)

SS	SS/サービス名	SS距離	先頭走者時刻
13C	"スタート レグ4 (MONACO) バルクフェルメアウト/サービスイン"		13:15
	サービスH (MONACO)	45+3分	
13D	サービスアウト		14:03
SS14	MOULINET-LA BOLLENE VESUBIE	23.41km	15:11
SS15	LANTOSQUE-LUCERAM	18.81km	15:54
15A	テクニカルエリア&リグループイン		17:06
15B	テクニカルエリア&リグループアウト/サービスイン		17:53
	サービスI (MONACO)	30+3分	
15C	サービスアウト		18:26
SS16	MOULINET-LA BOLLENE VESUBIE	23.41km	19:34
SS17	LANTOSQUE-LUCERAM	18.81km	20:17
17A	バルクフェルメ&テクニカルエリアイン		21:29
17B	バルクフェルメアウト&サービスイン		21:32
	フレキシサービスJ (MONACO)	45+3分	
17C	サービスアウト/バルクフェルメイン		
	全車バルクフェルメイン時刻		23:15

#### LEG4 2012年1月18日 (水)

SS	SS/サービス名	SS距離	先頭走者時刻
17D	"スタート レグ5 (MONACO) バルクフェルメアウト/サービスイン"		9:05
	サービスK (MONACO)	15+3分	
17E	サービスアウト		9:23
SS18	STE AGNES-COL DE LA MADONE	5.16km	10:11
18A	テクニカルエリアイン		11:01
18B	テクニカルエリアアウト/サービスイン		11:04
	サービスL (MONACO)	10+3分	
18C	サービスアウト/バルクフェルメイン		11:17



秒差でMINIのダニ・ソルド、3位は14.9秒差でヒルボネン。ヒルボネンはローブよりも少し柔らかめなコントロール性を重視したサセティングを選んでの出走だ。続くSS2はセーフティークルーの報告どおり多くの部分が降雪路となった。選手たちはSS1後、スペアとして搭載していた2本のスタッドを装着した。シトロエンとフォードは対角線上に同じ種類のタイヤを配置、MINIは右側の前後にスタッド、左側の前後にソフトを装着するという特殊なスタイルを選択。前輪2本をスタッドにするとオーバーステアが強まり、後輪2本をスタッドにすると重要なフロントのトラクションが得にくいからだ。

SS2で正解だったのはラトバラだった。左前輪と右後輪にスタッド、その逆側にスーパーソフトを装着しセカンドベストのペターに28.6秒をつける圧倒的なタイムで一気に

首位に浮上した。

「タイヤ選択が大正解だった。今まで前後左右で異なるタイヤを試したことはなかったんだけど、昨年のドイツでソフトとハードをクロスに装着して走ったペターのアドバイスで試してみた」と笑顔のラトバラ。しかし、そのペターはスーパーソフト4本でSS2を走った。それについてMスポーツ代表のマルコム・ウィルソンは「ヤリ・マティとペターで異なるタイヤ選択とし、少なくともどちらかが正解となるようにしたかった」と、述べる。

午後のループは、日が昇り気温が上昇したことでドライのセクションが増えた。SS1の再走となるSS3はほぼドライ、SS2の再走となるSS4も雪が溶けシャーベット状の路面が多く広がった。それでもトップチームのタイヤ選択は分かれ、シトロエンはソフト2本とスーパーソフト4本を選択。MINIは

ソフト4本とスーパーソフト2本をチョイス。唯一フォードだけが2本のスタッドをスペアとして搭載し、ソフト4本を装着した状態でマシンをステージへと送り出した。

SS3ではスーパーソフトとソフトを装着したローブが、2番手タイムのラトバラに0.4秒差のトップタイムをマーク。僅差の3



オジェの抜けたシトロエンにローブのサポートとして加入したヒルボネンはSS3でブレーキトラブルにより出遅れた。

## フル参戦最初のラリーからMINIは2ワークスを相手に好バトルを展開

いざ正式参戦というところで、資金難から体制変更を強いられたMINI陣営。クリス・ミークの出場しないラリーでは、ソルドにすべてがかかるといって見事2位を獲得。





番手にペターが入った。そして迎えたSS4では大きな事件が起きた。トップのラトバラが、ベースノートを読み漏らし直角コーナーにハイスピードで進入。横転してマシンに大きなダメージを負ってしまったのだ。今回のモンテカルロは特別規則でスーパーラリーによる再出走ができないため、ラトバラはあえなく競技初日でリタイアとなった。

これでトップに立ったのはタイヤ選びも完全に当たったローブだ。SS4でベストを刻んだローブは、サードベストのソルドに1分4秒2という大きな差をつけラリーリーダーとして初日を締めくくった。午前中のSS2でコースオフしたソルドは、ポディウム圏内で初日を終え上機嫌。そのソルドにわずか1秒差で迫るのは、スタッドを混ぜた午後のタイヤ選択が結果的に正しくなかったペターだ。しかし「マシンも自分自身もとても調子が良い。ヤリ・マティのリタイアは残念だが彼の分まで頑張るよ」と、笑顔を見せた。

驚くべきはペターと1分16秒差の4位につけたセバスチャン・オジエである。オジエは今季フォルクスワーゲンのドライバーとして、シュコダ・ファビアS2000ながら、並みいるWRカー勢を抑えて4位で初日を走りきった。SS2ではなんと3番手タイムを刻むなど、やはりその速さは並外れている。

## Day 2

### 白熱する2位争いをよそにローブがリードを拡大

競技2日目はバランスの西北エリアで3本のステージをループする計6SSが行なわれた。SSの合計距離は131.76kmとラリーの山場のひとつである。ただし前日より気温は高く、スノータイヤの出番はない。

雪道がなくなり通常のターマックに近い路面コンディションとなると、やはり圧倒的に速いのはローブだ。午前中3本のステージをすべてベストでまとめ首位をキープ。さらに、午後も2本のベストを刻み差を1分37秒2とさらに拡大。ローブは「今日はタイヤ選びのギャンブルもなく、好きな路面コンディションだったから難しくはなかった。明日は天気は崩れるようだから今日がチャンスだと思い攻めたよ」と、満足気に1日を振り返った。

白熱したのは2位攻防戦だ。リードするソルドをオープニングステージのSS5でペターが逆転し2位に浮上。しかしSS6ではソ



ペターはラトバラのリタイア後、ポイントを獲得することを最優先に走り続けつつ、ヒルボネンの追撃を振り切り表彰台を獲得。

ルドが再び2位に上がり、SS7ではペターが2位を取り戻すなど一進一退の攻防戦が続く。SS8ではソルドが今回初となるベストタイムを刻むがペターは僅差で2位を死守。SS9でもソルドを抑え切ったペターだが、SS10で抜かれ3.7秒差の3位で1日を終えた。

オジエはSS10でハイスピードタラッシュ。WRカー勢を上まわる速さを見せていたがラリー序盤でリタイアとなった。

天候は崩れ、SSのある山岳エリアは雨と霧に見舞われた。道は全体的に湿り、雪やアイスバーンなどが随所に残るトリッキーな路面となった。スタートを前に各チームはセーフティークルーの情報からタイヤを検討。3チームはそれぞれ異なる判断を下した。

SS11を制したのはスリックとスタッドなしのスノーを選んだフォード。ペターがフォード加入後初のベストタイムを刻み、ソルドを抜いて2位に浮上。49歳のデルクールがセカンドベストをマークした。シトロエンはスリックで、リヤハッチ内に2本のスタッドを搭載。SS11は我慢のステージとなった。

しかし、続くSS12では4本のスタッドを装着したシトロエン勢が他を大きく引き離れた。ヒルボネンはシトロエンで初めての最速タイムを記録。ローブが3.7秒差の2番手タイムで続いた。路面は気温が上昇し雨も強く降ったことで水びたしとなり、滑りやすいシャーベット状の雪や、アイスバーンが渾然一体となる最悪のコンディション。タイヤを供

## Day 3

### ペター、タイヤ選択に失敗大幅にタイムを落とす

競技3日目、金曜日はモナコへとラリーの拠点動く大移動の1日。午前中にバランスの東側で2本のSSを行ない、サービスの後、南東約400kmのモナコへ向けて移動。途中で1SSをこなすというアイテナリーだ。SSは3本、77.3kmとかなり短い。



エナジードリンク「GO FAST」をスポンサーにヘニング・ソルベルグとマシュー・ウィルソンがフィエスタで参戦。



自身初となるシトロエンでのベストタイムをマーク、ペターを追い上げたヒルボネンだったが、表彰台獲得はならず。

N Kobayashi

N Kobayashi

N Kobayashi



給するミシュランのエンジニアは「4輪ともスタッドが正解だった」と、シトロエンの選択を賞賛した。

4輪にスノーを装着したソルドは、5番手と4番手タイムで無難に午前中のステージを終了。首位ローブとの差は2分に拡大したが、3位ペターとの差も57.6秒に開いた。ペターはSS12をスノーとスリックの組み合わせで走行し、滑りやすい路面に大苦戦し大幅にタイムを落とした。ベストのヒルボネンからはなんと1分46秒遅れで、総合では4位ヒルボネンに39.3秒差にまで迫られた。

「タイヤ選びは完全に失敗だった。SS12は前輪がスタッドなしスノー、リヤがスリックという組み合わせで走ったが、あらゆる場所で滑ったよ。ハイドロプレーニングもひどく、まともに走れなかった」と、失意のペター。加えてモナコへと向かう途中のSS13でインカートの際にホイールを破損。さらなるタイムロスをおし2位ソルドとは1分6秒差に拡大。2度目のベストを刻んだ4位ヒルボネンとの差は23.8秒差まで縮まってしまった。

ラリー後半、ペースを上げてきたヒルボネンは「明日はチュリニ峠のSSもあるし、長い距離が残っている。3位も夢じゃないね」と、打倒ペターを誓った。総合5位は、安定した走行を続けるノビコフ。6位にデルクールと、



WRカーに迫りSWRCをリードしたP-G.アンダーソンのサトリアネオはデイ4でエンジンルームから出火しリタイヤ。

2台のフォードが続いている。

## Day 4

### ペター渾身の3連続ベストしかし、順位は変わらず

土曜日はモナコを中心に4本のSSが行なわれた。ステージはモナコの北側に広がる南フランス山岳地帯を縫う2本のコースを2度走行する構成。ループステージは19時34分スタートと、完全に日が暮れてからとなる。

名所チュリニ峠を含む最初のSS14でベストタイムを刻んだのは、前日2本のSSベストで3位ペターに23.8秒差まで迫ったヒルボネンだった。だが、ペターも1.7秒遅れのセカンドベストで食い下がる。

続くSS15では、なんととしてでも表彰台に上がりたいペターが猛スパート。2番手タイムのローブに8.4秒差をつける最速タイムでヒルボネンとの差を30.5秒差に拡大。勢いに乗るペターはなおもフィエスタRS WRCの手綱を緩めず、暗闇のなかSS16、17も駆け抜け3連続ベスト。ヒルボネンとの差を1分4秒と大きく広げ、2位ソルドに19.1秒差まで迫った。

「フィエスタRS WRCはまったく非の打ちどころがなく思い切り攻めることができた。これほど自信を持って走ることができたのはスバル時代の2004年以来だよ。運転していて本当に楽しんだ。表彰台フィニッシュが最優先だからそれほどリスクは犯していないのに良いタイムを出せた」とペター。

2位ソルドと3位ペターの差は19.1秒に縮まったが、ソルドは「最終日はSSが1本しかないし距離も5.16kmと短い。普通に走れば2位は守れるだろう。王宮前のポディウムまで無事MINIを運ぶよ」と、余裕をみせる。



大量リードで優勝したローブ。1回のタイヤ選択ミスがライバルチームに勝利を明け渡す可能性のあるラリーだった。

首位ローブとの差は2分41秒と大きく開いており逆転はまず不可能。最終日、ソルドがなすべきは淡々とステージを走り切ることだ。

優勝に王手をかけたローブは「今日は路面の状態も良く楽しく走ることができた。夜のチュリニ峠は素晴らしい雰囲気、やはりモンテカルロは特別なラリーだね」と、4年ぶりのモンテカルロを楽しむ余裕の走行。08年以来通算6度目となる優勝に向けて、すでにビクトリーランモードに入っている。

## Day 5

### 3ワークスが表彰台登壇今後の激戦を予感させる

チュリニ峠を含むナイトステージを終え、勝負の行方はほぼ決まったも同然なラリーモンテカルロだが、王宮前のポディウムに上がるためには最後のSSを無事に走り切らなければならない。最終日に用意されたのはパワーステージに指定された全長5.16kmただ1本。上位タイムを刻んだ選手には順に3-2-1ポイントが与えられる。コースはターマックで路面はドライ。4日間にわたるトリッキーなステージを走行し、必ずしも路面に合ったタイヤが残されているとは限らない。

Day 1					Day 2					Day 3							
出走順	No.	ドライバー	SS1	SS2	SS3	SS4	No.	ドライバー	SS5	SS6	SS7	SS8	SS9	SS10	No.	ドライバー	SS11
1	1	S.ローブ	1	3	3	1	1	S.ローブ	1	1	1	1	1	1	1	S.ローブ	1
2	2	M.ヒルボネン	37	1	1	37	37	D.ソルド	4	37	4	4	4	37	37	D.ソルド	4
3	3	J.M.ラトバラ	2	4	4	4	4	P.ソルベルグ	37	4	37	37	37	4	4	P.ソルベルグ	37
4	4	P.ソルベルグ	3	37	37	15	15	S.オージェ	15	2	2	2	2	2	2	M.ヒルボネン	6
5	9	M.ウィルソン	4	2	2	6	6	E.ノビコフ	2	6	15	6	6	6	6	E.ノビコフ	2
6	37	D.ソルド	52	15	15	2	2	M.ヒルボネン	6	15	6	15	15	8	8	F.デルクール	8
7	10	H.ソルベルグ	6	6	6	8	8	F.デルクール	8	8	8	8	8	52	52	P.カンバーナ	5
8	5	O.タナク	8	20	23	52	52	P.カンバーナ	52	52	52	52	5	5	5	O.タナク	52
9	6	E.ノビコフ	16	8	8	5	5	O.タナク	5	5	5	5	52	33	12	A.アラウジョ	33
10	21	M.プロコップ	20	52	52	33	33	M.ウィルソン	33	33	33	33	33	17	21	M.プロコップ	17
11	12	A.アラウジョ	23	33	20	17	17	M.プロコップ	17	17	17	17	17	12	9	M.ウィルソン	12
12	52	P.カンバーナ	15	17	5	9	9	A.アラウジョ	9	9	9	9	9	21	10	H.ソルベルグ	21
13	8	F.デルクール	5	23	33	21	21	H.ソルベルグ	21	21	21	21	12	9	14	P.ノブレ	9
14	14	P.ノブレ	21	5	17	12	12	P.ノブレ	12	12	12	12	21	10	33	P-G.アンダーソン	10
15	11	P-V.メルクシュタイン	12	9	9	32	33	P-G.アンダーソン	32	32	32	10	10	32	17	K.アブリング	32



N.Kobayashi

ラリーの締めくくりとなるSS18でトップ2タイムを刻んだのはターマック用タイヤを温存しておいたシトロエン勢だった。ローブがベストを、ヒルボネンがセカンドベストをマーク。4年ぶり6度目となるモンテカルロ優勝を決めたローブはボーナス3ポイントを加えフルポイントの28ポイントを手にした。「長くて大変なラリーだったがマシンは完璧で、タイヤ選びもうまくいった。優勝はチームのみんなのおかげだよ」と、王宮前の表彰式で最後に登場したローブは、ポディウムに上がる前、石畳のパルクフェルメでマシンを振りまわしタイヤから激しく煙を立ち上らせた。突然の出来事に観客は驚きながらも拍手大喝采。マシンから降りてきたローブは満面の笑みを浮かべて観客たちの声援に応えた。

モンテカルロの伝統に則り赤い布で覆われた台でトロフィーを受け取ったクルーは、優勝ローブ、2位ソルド、3位ペター。3マニユファクチャラーの選手がバランスよく並び、面白いシーズンの幕開けを予感させた。

2位に入ったソルドは「MINIでモンテカルロ2位になるなんて夢のようだ。3月にはマシンのアップデートも予定されているから、今年は優勝も可能だと思う」とコメント。3位ペターは「フォードに入って最初のラリーで表彰台に上がれてうれしい。タイヤ選択ミスさえなければ2位も可能だった。とにかく、最高のマシンに乗ることができて素晴らしい気分だよ」とラリーをふり返った。

総合4位にはヒルボネンが入り、5位には終始安定した走行を続けパワーステージでも3番手タイムを刻んだノビコフが入った。49歳のデルクールは年齢を感じさせない走りで見事6位フィニッシュ。最終ステージでは、今回を最後に引退するコ・ドライバーにステアリングを譲るという小粋な演出でラリーを締めくくった。



シトロエン、MINI、フォードと3ワークスの選手が表彰台を分け合い、今季の激戦を予感させる開幕戦の結果となった。

## ドライバーのシャッフルと3ワークス参戦により戦いに新しい展開が見えてきた2012WRC



モンテでMINIの第2ドライバーを務めたビエール・カンパーナはデルクールに次ぐ7位で完走を果たした。



今年からWRカーにステップアップした元JWRC王者のマルティン・プロコップ。9位で2ポイント獲得。

### Day 4

### Day 5

### 総合順位

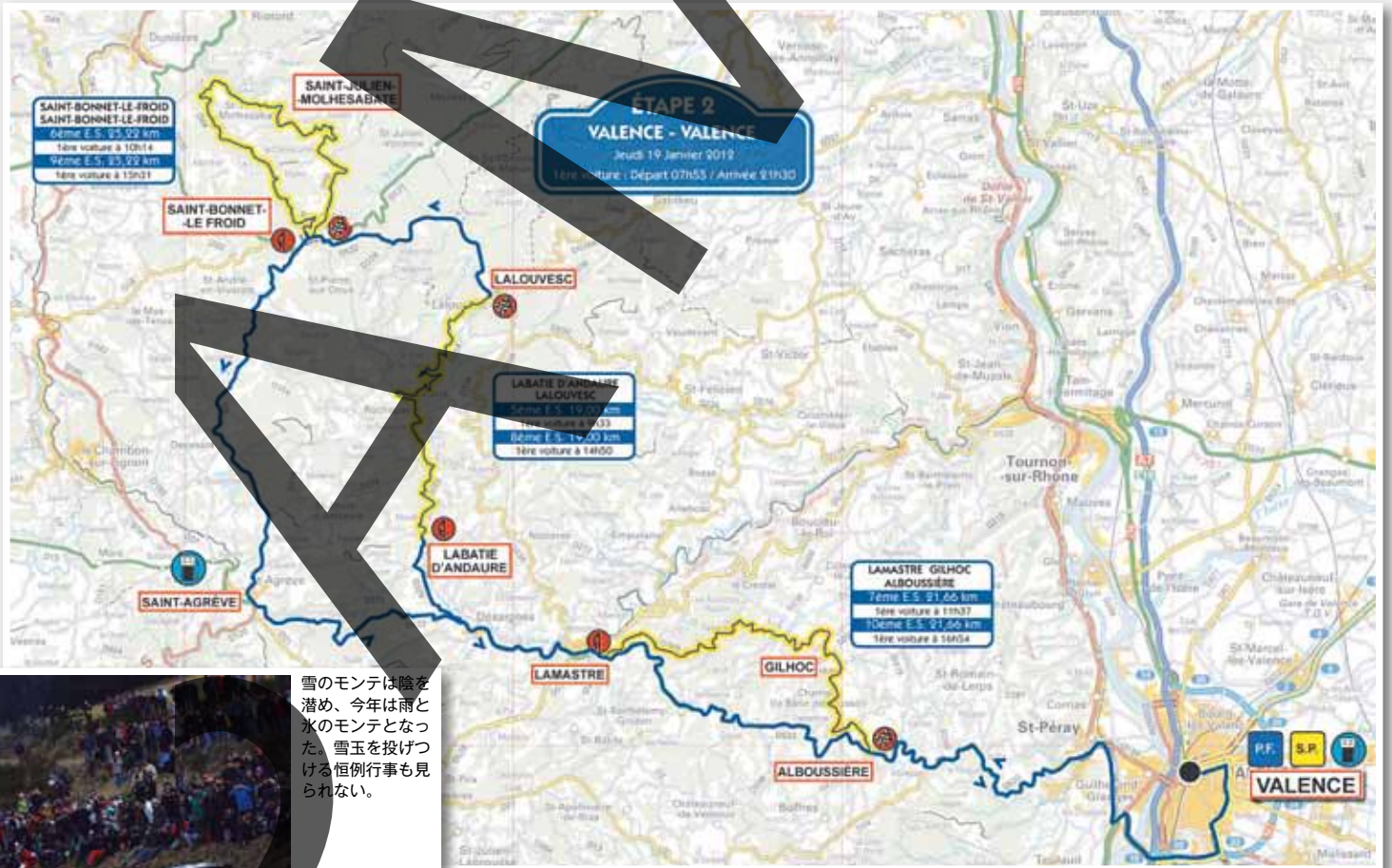
SS12	SS13	No.	ドライバー	SS14	SS15	SS16	SS17	No.	ドライバー	SS18	順位	No.	ドライバー	SSタイム	ペナルティ	トータルタイム
1	1	1	S.ローブ	1	1	1	1	12	A.アラウジョ	1	1	1	S.ローブ	4:32:39.9		4:32:39.9
37	37	37	D.ソルド	37	37	37	37	21	M.プロコップ	37	2	2	D.ソルド	4:35:25.4		4:35:25.4
4	4	4	P.ソルベルグ	4	4	4	4	5	O.タナク	4	3	4	P.ソルベルグ	4:35:54.1		4:35:54.1
2	2	2	M.ヒルボネン	2	2	2	2	52	P.カンパーナ	2	4	2	M.ヒルボネン	4:36:46.7		4:36:46.7
6	6	6	E.ノビコフ	6	6	6	6	6	F.デルクール	6	5	6	E.ノビコフ	4:38:43.3		4:38:43.3
8	8	8	F.デルクール	8	8	8	8	6	E.ノビコフ	8	6	8	F.デルクール	4:40:27.8		4:40:27.8
52	52	52	P.カンパーナ	52	52	52	52	2	M.ヒルボネン	52	7	52	P.カンパーナ	4:41:11.3		4:41:11.3
5	5	5	O.タナク	5	5	5	5	4	P.ソルベルグ	5	8	5	O.タナク	4:43:14.5		4:43:14.5
33	33	12	A.アラウジョ	33	33	21	21	37	D.ソルド	21	9	21	M.プロコップ	4:48:50.6		4:48:50.6
17	12	21	M.プロコップ	21	21	12	12	1	S.ローブ	12	10	12	A.アラウジョ	4:48:56.5		4:48:56.5
21	21	9	M.ウィルソン	12	12	17	9	9	M.ウィルソン	9	11	9	M.ウィルソン	4:51:30.9		4:51:30.9
12	17	10	H.ソルベルグ	17	17	9	17	10	H.ソルベルグ	17	12	17	K.アブリング	4:51:36.2		4:51:36.2
9	9	14	P.ノブレ	9	9	10	10	14	P.ノブレ	10	13	10	H.ソルベルグ	4:52:56.2		4:52:56.2
10	10	33	P.G.アンダーソン	10	10	32	32	17	K.アブリング	32	14	32	C.ブリーン	4:57:06.2		4:57:06.2
32	32	17	K.アブリング	32	32	16	16	32	C.ブリーン	16	15	16	B.ブフィエ	4:58:35.3	1:30	5:00:05.3



Monte Carlo  
Route Map  
DAY1~5

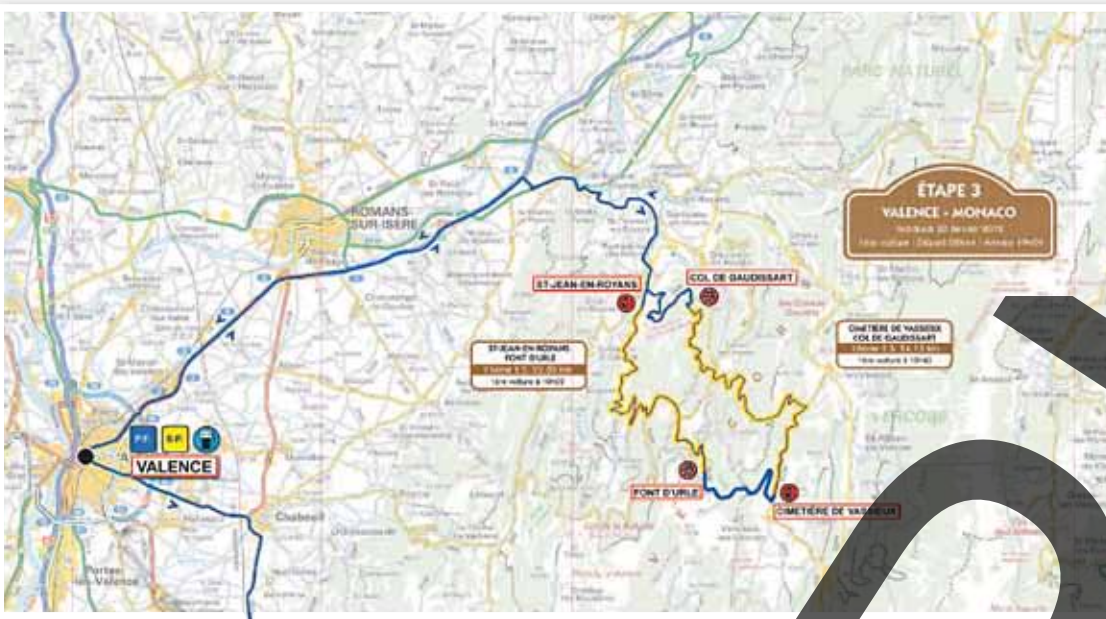


古から連綿と続く伝統あるラリー。その観戦方法も原始的。野暮な柵やマーカ-の類いはほとんどない



雪のモンテは陰を潜め、今年は雨と氷のモンテとなった。雪玉を投げつける恒例行事も見られない。





道の両側を埋め尽くす観客たちのなかを走り抜ける。デイ3後に向かう先はモナコへの長いリエゾンだ。



デイ4以降はフランスに移動し、モナコ周辺のワインディングを用いたSSとなる。



全18SSを走り終えた騎士たちが王宮前に騎馬を従える。半世紀以上にわたって続く光景が今またWRCに還ってきた。

ベース：バランス/モナコ  
サーフェイス：ターマック

**DAY1**

- SS：4本
- SS距離：134.70km
- リエゾン：337.12km
- 総走行距離：471.82km

**DAY2**

- SS：6本
- SS距離：131.76km
- リエゾン：310.20km
- 総走行距離：441.96km

**DAY3**

- SS：3本
- SS距離：77.30km
- リエゾン：468.42km
- 総走行距離：545.72km

**DAY4**

- SS：4本
- SS距離：84.44km
- リエゾン：188.06km
- 総走行距離：272.50km

**DAY5**

- SS：1本
- SS距離：5.16km
- リエゾン：43.31km
- 総走行距離：48.47km

**TOTAL**

- SS：18本
- SS距離：433.36km
- リエゾン：1347.11km
- 総走行距離：1780.47km











# point of view

Rd.01 Rallye Monte Carlo

## タイヤを制するものがモンテカルロを制する

モンテカルロで優勝するには、タイヤに関する最適な妥協点を見つけるだけでなくそれをうまく活用する術を知る必要がある。ローブはこの分野におけるエキスパートだ

Text Michel Lizin Translation Keiko Ito  
Photos CITROEN

**2** 012年の開幕戦、ラリーモンテカルロはひどい寒波に見舞われるという予想もあったが、それは杞憂に終わり、ラリールートにおいて強い降雪はほとんどなかった。

ラリー前、1月14日の土曜日と15日の日曜日、レッキは完全なドライコンディションのもとで行なわれた。しかし最終日の夜中にはアルデッシュ、オートロワール、そしてベルコールに強い雨が降り注ぎ、高地ではそれが雪となった。気温がすぐに上がったおかげで雪は溶けたが、森の下生えには雪が残った。

それは、エシャラソン峠のフォレストステージ (SS12)、あるいは特に有名なビュルゼ (SS2とSS4) の途中にあるラシャン・ラファエル村近辺の数kmにおいても同様のコンディションだった。

第80回大会の勝負の趨勢が決したのは、わずかにこの数十kmでのことだった。

イベントのスタートはとても伝統的、そしてとてもデリケートなステージからだった。アルデッシュ地方における最も有名なスペシャルステージ、ファイヨール峠を通過するル

・ムリノン・アントレーグ、そしてビュルゼ・サン・マルシアルだ。

通常、前者のステージの路面はドライ、または普通のウエットであることが多いが、後者については（特にラシャン・ラファエル近郊では）路面が絶えず変化し、トリッキーであることが多い。

この2本のスペシャルステージは、もう40年以上も連続して行なわれている。以前はメカニックたちがステージ間でタイヤ交換を行なうこともあったが、現在の頼みの綱はトランクに入れられるスペアタイヤ最大2本のみ。しかも作業はクルー自らが行なわなければならない。

スタート前のサービスで、フォード、シトロエンとMINIは同じような行動をとった。マシンには4本の「舗装用タイヤ」が装着され、トランクにはスタッド付きのスノータイヤが入れられた。しかし、その後の展開に影響を与える最も重要な違いがひとつだけあった。フォードのワークスドライバー2名は最もソフトな“スーパーソフト”を使用した。他のドライバーたちは“ソフト”を選んだ。

事前テストではソフトの方が効果的だったというデータが得られていたためだ。もっとも、そのテストはドライコンディションで行なわれたわけだが……。

最初のラリーカー、セバスチャン・ローブがSS1をスタートした時点で、セーフティクルーが指摘した霜はほとんど溶けていた。

「我々は正しい選択をした」とアントレーグでトップになったローブは断言した。彼はソルドに1秒、ヒルボネンに14.9秒、そしてラトバラに対して22.2秒、ソルベルグにはすでに34.4秒の差をつけていた。

ラトバラは「次のステージではスタッドタイヤを履く」と気持ちを落ち着かせて語った。ビュルゼ (SS2) の前に、ソルベルグ以外の全クルーはスタッドタイヤを装着している。ソルベルグは最後の最後でスーパーソフト4本をキープすることを選んだ。凍結している箇所があったら、ウデでなんとかするという戦略だった。

他のドライバーたちが履いたスタッドタイヤの位置は、それぞれ異なるものだった。MINI勢は片側のみ、そしてローブ、ヒルボネン、ラトバラは対角線上に装着した。

ビュルゼを21分28秒2で走り切ったラトバラは、スタッドなしのスーパーソフトを4本履くチームメイトのソルベルグに28.6秒、ローブに52.7秒の差をつけた。滑りやすいステージにおいて、スタッド2本と組み合わせられたソフト2本とスーパーソフト2本の差は1kmあたり2秒以上もあったのだ。

この時点でラトバラがローブに30.5秒、ソルベルグに40.8秒、そしてソルドに44.1秒の差をつけて総合トップに躍り出た。

バランスでは、各チームが最初の2SSで得られたデータを詳細に分析しようと試みていた。ラリーモンテカルロにおいては、それぞれのマシンのパフォーマンスを、サービスに戻った時（すなわち6本のタイヤを交換した状況において）完全に分析する必要がある。



装着するタイヤ4本+搭載するタイヤ2本の組み合わせで千変万化する路面に対応していく。







違うコンパウンドのタイヤを対角線上にクロス装着したり、左右非対称で装着したりと、各チームでスタイルが分かれた。ドライバーも想像するほど大きな違和感はないと言う。

午前中に使用されたそれらのステージは午後のループで再び使用される。ラトバラ、そしてソルベルグのタイムに刺激されたシトロエンは状況を根本的に見直した。

そして、ローブはル・ムリノン (SS3) を片側スーパーソフト2本、反対側をソフト2本でスタートした。トランクには午前中のソルベルグと同じタイヤチョイスを再現するために2本のスーパーソフトを積んでいる。午後の走行に入るまでには、ステージ内にあった雪は溶けて消えているはずだ。

フォード勢も考え方は同じであるが、結論は正反対のものだった。ル・ムリノンにおける凍結が少ない路面に耐えることができる“ソフト”を優先し、ピュルゼを越えるために2本の“スタッドタイヤ”を使う。ル・ムリノンにおけるタイム差はわずかだ。トップはローブで、ラトバラに0.4秒、ソルベルグに1.5秒、そしてソルドに8.3秒差をつけた。

そしてドライバーたちは問題のステージ、ピュルゼに臨んだ。

ここでフォードのクルーは、午前中に自分たちが選択した「スタッド2本+スーパーソフト2本」の組み合わせと、いま自分たちが履いている「スタッド2本+ソフト2本」の差があまりに大きいことに気がついた。

ソルベルグはローブに53.4秒差をつけられた。ラトバラはブレーキングの際にマシンのバランスを失いコースオフ。結果、リタイヤとなった。このモンテカルロではスーパーラリーは適用されない。その瞬間、フォードは最高のアドバンテージを失い、ローブは最も手強いライバルから解放された。

初日が終わった時点で、タイヤ選択における彼自身とチームの明晰さのおかげで、ローブはMINIのソルドに対して1分4秒2、そしてソルベルグに対して1分5秒2の差をつけることに成功した。

その後、ローブは金曜日の午前中に再びタイヤ選択で成功を収め、後続との差を大きく広げることに成功した。それ以降は単にペースをコントロールするだけで良い状況となり、早速シーズン1勝目を手に入れている。



### ● Michel Lizin

大学では政治学を専攻するも、ラリーへの情熱が燃え上がりモータースポーツジャーナリストに。以降、30年以上もの取材歴を誇るベテランWRCジャーナリストだ。ラリーそのものよりも、ドライバーやチーム内の“人物”に鋭く切り込む評論が持ち味。本誌をはじめ、日本のラリー雑誌にも長年寄稿しており、馴染みが深い存在。TTEのコ・ドライバーの急病で1985年ニュージーランドで代役を務めたという異色の経験を持つ。ベルギー出身。



# SWRC Report

[SWRCレポート]

## 好調のプロトン勢が トラブルでストップ グリーン、唯一の完走

Text Keisuke Koga Photos Naoki Kobayashi

全8戦のシリーズが組まれた2012年のSWRC（S2000世界ラリー選手権）開幕戦ラリーモンテカルロは、エントリーがわずか3台という寂しいスタートとなった。シリーズ全体では前年のPWRC王者ヘイデン・パドゥンや同2位のバトリック・フローディンなど強豪が多数参戦を予定しているが、開幕戦でなおかつ特殊なラリーであるモンテカルロは多くの選手達に敬遠されエントリーが集まらなかった。

出場した3台のうち2台は、今季よりワークス体制でSWRCに参戦することになったプロトン。イギリスのクリス・メローズ率いるMEMが製作するサトリアネオS2000は、昨年アリスター・マクレーがアジア・パシフィック選手権のタイトルを獲得。今季は活動規模をさらに拡大し、パー・ガンナー・アンダーソン、ジャンドメニコ・パツォ、そしてマクレーという豪華なラインナップでSWRCを戦うことになった。開幕戦モンテカルロにはターマックを得意とするパツォとアンダーソンの2台体制で出場。マシンはエンジンが強化され、ハンドリング性能も改善されるなど前年よりもパフォーマンスが向上した。アンダーソンは「このマシンなら選手権で上位を戦える」と、自信を見せる。

もう1台のエントリーは、昨年WRCアカデミーを制したアイルランド期待の若手クレ



WRCアカデミー最終戦GBではトップタイムを連発し逆転勝利したグリーン。同じフィエスタでもS2000はまだ手に余る。

イグ・グリーン。マシンはフォード・フィエスタS2000と戦闘力は高いが、ライバルと比べれば経験が圧倒的に不足している。

ラリーはプロトンの片翼、パツォがSS1でコースアウトしリタイアするという波乱の幕開けとなった。これで1台のみとなったプロトン勢だが、アンダーソンとグリーンの実力差は明らか。アンダーソンはグリーンのタイムを見ながら徐々に差を広げていく。グリーンはといえば良い走りはするが経験不足はいかんともし難く、3度のバンクを喫しデイ3を終えてモナコへと入るまでに7分以上の差をアンダーソンにつけられてしまった。

絶対的なリードを築き、総合でも9位につけるなど優勝は間違いなしと思われたアンダーソンだったが、夜のチュリニ峠には魔が潜んでいた。日没後の2ループ目のSS14で、アンダーソンのサトリアネオは走行中突然ボンネットから出火。安定した走り続けていたアンダーソンは、SWRC優勝目前にしてまさかのリタイアとなってしまったのである。



ブジョー207S2000でのIRCモンテ優勝経験もあるオジェ。エントリー外ながら圧倒的な速さを見せるもリタイア。

期せずしてトップに立ったグリーンは最終日、慎重に最後のステージを走り切りフィニッシュ。SWRCで唯一となる完走を果たし、望外ともいえるSWRC初優勝を飾った。

ラリー後グリーンは「アンダーソンはとても速かっただけにリタイアしてしまい残念だ。このようなかたちで優勝してあまり喜ぶべきではないが、今回モンテカルロを走って色々なことを学んだ。この経験を次につなげたい」と、慎重に言葉を選びながら、ラリーモンテカルロを制した感想を語った。



IRCでも頻発していたエンジントラブルにまたもや見舞われたプロトンとアンダーソン。悔しい敗戦となった。

### ■ S2000 WRC CLASSIFICATION S2000世界ラリー選手権ドライバーズポイントスタンディング

POS	DRIVER	MCO	SWE	PRT	NZL	FIN	GBR	FRA	ESP	TOTAL
1	C.グリーン (IRL)	25 (1位)								25
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										



# PWRC Report

[PWRCレポート]

## エントリーは3台のみ トラブルを抱えながら コシューツコが1勝目

Text Keisuke Koga Photos Naoki Kobayashi

2012年のPWRC（プロダクションカー世界ラリー選手権）は全8戦で戦われ、選手たちはそのうち6戦をノミネートして出場する。開幕戦として選ばれたのはラリーモンテカルロ。4年ぶりにWRCのカレンダーに復活した伝統の一戦には多数のエントリーが期待されたが、PWRC枠での出場は3台のみ。

ほかのイベントに比べるとモンテカルロは開催期間が長く、タイヤもスノーとターマックを用意しなければならないなど参戦コストがかさんでしまう。そのため多くの選手がモンテカルロへのエントリーを見合わせた。裏を返せば、出場を決めた選手にとってはポイント獲得の大きなチャンス。完走さえすれば大量得点が可能とあり、2011年もPWRCを三菱ランサーエボリューションで戦いシリーズ3位となったミカル・コシューツコは必勝を期してスタート地点となるフランスのバランスに入った。

その他のPWRCエントリーは、やはり三菱ランサーエボリューションを駆るイタリア人のロレンツォ・ベルテッリと、2WDのプロダクションカーカップを狙うイギリス人女性ドライバーのルイズ・クックのみ。クックのマシンは非力なフォード・フィエスタSTであり、実質的にコシューツコのライバルはベルテッリのみということになる。

しかし、そのベルテッリはなんとSS1を



昨年と同じランサーエボリューションXのコシューツコ。メンタル的にもこれほど完走の難しいラリーはなかっただろう。

走行後に駆動系のトラブルでリタイア。モンテカルロではラリー2（昨年までのスーパーラリー）が摘要されないことから、コシューツコの相手は旧型フィエスタのクックただひとりとなってしまった。

モンテカルロは初出場、しかもスタッドタイヤで雪道を走るのは初めての経験だったというコシューツコだが、相手が圧倒的なパワー差のある2WDマシンを駆るルーキーとあって、ただ普通に走るだけで自然とリードが広がっていく。両者のギャップは競技初日だけで40分以上開き、2日目に1時間をオーバー、3日目には80分を越えた。

これで優勝は確実かと思われたコシューツコだが、競技4日目チュリニ峠を含むループステージで最大のピンチが訪れた。最初の2本のSSを走行中にフロントデフにトラブルが発生。モナコのサービスで修理を試みるが時間が足らず、トラブルを抱えたまま再走ステージへと向かうことになってしまったのだ。幸いにしてクックとの差は大きく開いていた



PWRCエントリー外ながらグループNやR3などは多い。写真のルノー・メガーヌRSやDS3 R3Tなど車種は多岐。

ため、コシューツコは極端にペースを落とし、総合で最下位から2番目に遅いタイムで2本のSSをクリア。しかし、クックは2本とも最下位のタイムだったため差は拡大していく。

なんとかナイトステージを走り切ったコシューツコは最終日に残された1本のパワーステージを無難に完走し優勝を飾った。

「今回は25ポイントを獲得することが課題だった。内容はともかく目標を達成することができてうれしい」と、PWRC初優勝を決めたコシューツコはラリー後に語った。



思いがけずPWRC 2位、18ポイントを獲得したクックのマシンは旧型のフィエスタ。総合では最下位だった。

### PRODUCTION CAR WRC CLASSIFICATION プロダクションカー世界ラリー選手権 ドライバーズポイントスタンディング

POS	DRIVER	MCO	MEX	ARG	GRC	NZL	DEU	ITA	ESP	TOTAL
1	M.コシューツコ (POL)	25 (1位)								25
2	L.クック (GBR)	18 (2位)								18
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										



## CITROEN TOTAL WORLD RALLY TEAM

●シトロエン・トタル・ワールドラリーチーム



### ヒルボネンいまひとつの開幕戦

開幕戦に合わせてDS3 WRCのアップデートを行なったシトロエンはエースのローブがオープニングステージを制覇。SS2では「選択したタイヤが路面に合っていなかった」と語るように4番手タイムに留まったが、SS4で再びベストタイムをマーク。首位のラトバラがリタイアしたことで初日をトップでフィニッシュした。2日目に5本のSSウインを獲得したローブは3日目からペースをコントロールし、大会6勝目を獲得。一方、セカンドドライバーのヒルボネンはSS3でブレーキを破損したほか、ペースを落とすこと初日は6番手に留まったが、ドライバーマックと化した3日目以降はペースを上げ、計3本のSSウインを獲得した。

machine

シトロエンDS3 WRC



### 1 セバスチャン・ローブ

●Sebastien Loeb (FRA)

DAY1:1位/DAY2:1位/DAY3:1位/DAY4:1位/DAY5:1位  
色々な意味で勝ててうれしい。たくさんのサポーターが道端で応援してくれていたのも、皆のためにも勝ちたかった。2位との差は大きいけど、楽勝だったとはとても言えない。自分のリードの多くはタイヤチョイスによって築くことができた。初めて5種類のタイヤから選択でき、常に状況にあわせた最善の選択ができるようにやりくりしていた。DS3 WRCは夢でも見ているかのように動いてくれた。いいシーズンの始まりとなった。



### 2 ミッコ・ヒルボネン

●Mikko Hirvonen (FIN)

DAY1:6位/DAY2:4位/DAY3:4位/DAY4:4位/DAY5:4位  
初めてのクルマで出るイベントとしては（モンテカルロは）簡単じゃない。でも結果には満足している。雪があった2日間は特に難しかった。ターマックでは気分いい状態で、いくつか良いタイムも出せた。SS16では冷えたタイヤでスピンをしてしまったため、SS17では慎重にドライブした。落ち着いてミスをしないうちに、フィニッシュをして得点を得ることに目標としていた。今からスウェーデンが楽しみだ。

## FORD WORLD RALLY TEAM

■フォード・ワールドラリーチーム



### フィエスタRS WRCをペターが絶賛

SS1で4番手と出遅れたラトバラは、対角線上にスタッドタイヤを装着したSS2でスーパーアタックを披露。2番手のローブに約30秒の差をつけてトップでフィニッシュした。続くSS3でもセカンドベストをマークするものの、ペースノートを聞き間違えたことによりSS4でコースアウト。競技初日でリタイアすることになった。一方、チームメイトのペターはポイントを獲得すべくコンスタントな走りを披露。初日は3番手、2日目もMINIのソルドと激しいバトルを展開する。さらに3日目にはSS11でベストタイムをたたき出すも、SS13でホイールを破損し11番手タイムに低迷。それでも4日目には3本のSSウインを獲得し、3位に入賞した。

machine

フォード・フィエスタRS WRC



### 3 ヤリ・マティ・ラトバラ

●Jari-Matti Latvala (FIN)

DAY1:リタイア  
スタッドタイヤを対角に装着することに対しては、最初のステージでは失敗したと感じたが、次のステージではかなり速く走れた。勝利を目指して全力で走っていたところでミスしてしまった。スタートから10kmほどのところで路面がドライからアイスへと変わったので路面に集中をしすぎてノートが疎かになった。午前中に良いタイムを出せていたのでアイスでタイムを稼げると思っていたのだが。残り12戦、選手権を考えて戦うよ。



### 4 ペター・ソルベルグ

●Petter Solberg (NOR)

DAY1:3位/DAY2:3位/DAY3:3位/DAY4:3位/DAY5:3位  
わずか2日間のテストの後で、ダニと戦って、セブに接近できるとは予想できなかった。DAY3最後のSSではフロントホイールを岩に軽くヒットしてしまった。でも結果は本当に素晴らしい。このクルマを運転するのは気持ちいいし、信じられないくらいに速い。チームが言うには、スノーやグラベルではもっと速いらしい。このクルマでいいリズムに乗るのが簡単で、そうなることとは楽しむだけ。次のスウェーデンが待ち切れない。



# M SPORT FORD WORLD RALLY TEAM

● Mスポーツ・フォード・ワールドラリーチーム

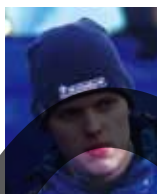


## モンテカルロの3台目はデルクール

Mスポーツは3台のフィエスタWRCを投入。そのなかで最も安定した走りを披露したのがノビコフだった。SS4で5番手タイムをマークし、5位で初日を終えると、2日目には2本のSSで4番手タイム、3日目には2本のSSでサードベストをマーク。尻上がりにペースを上げて5位に入賞した。一方、ノビコフとは対症的に浮き沈みの激しかったのがデルクールだ。絶妙なタイヤ選択を披露し、SS4でセカンドベストをマークすれば、SS6ではインターコムでトラブルで壁にヒットするなど一進一退の攻防を展開。それでもデルクールは6位。さらにタナクもドライターマックに入ると徐々にペースアップを果たし、8位でフィニッシュした。

machine

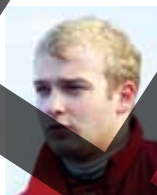
フォード・フィエスタRS WRC



## 5 オット・タナク

● Ott Tänak (EST)

DAY1:9位/DAY2:8位/DAY3:8位/DAY4:8位/DAY5:8位  
SS10ではエンジンが止まり、10秒以上はタイムロスをした。自分たちにとって非常に難しいラリーだったが、最も大事なことである完走ができたことで、間違いなく良かったと言える。他のイベントは経験があるので、もう少しブッシュできると思う。



## 6 エフゲニー・ノビコフ

● Evgeny Novikov (RUS)

DAY1:5位/DAY2:5位/DAY3:5位/DAY4:5位/DAY5:5位  
ここで完走できてとてもうれしい。自分たちにとってとても良い経験になった。常にコンディションが変わるのでおそらく一番難しいラリーだった。結果は満足しているし、この先のシーズンではもっと速くフィニッシュするところを見せられると思う。



## 8 フランソワ・デルクール

● Francois Delecour (FRA)

DAY1:7位/DAY2:6位/DAY3:6位/DAY4:6位/DAY5:6位  
現代のWRカーはエンジン、ブレーキ、すべてがシャープな印象だ。学びながらの運転だったが、若干、慎重すぎたようだ。今回は友人ドミニク（サビニョーニ）にとって最後のラリーだったので、いいラリーにしたいと思っていたからうれしいよ。

# MINI WORLD RALLY TEAM

■ MINI ワールドラリーチーム



## 復活のモンテカルロ、安定した速さ

BMW MINIは2台のMINI JCW WRCを投入。両車ともほぼ2011年仕様の状態だったが、得意なターマック戦で素晴らしいパフォーマンスを披露した。なかでも、エースのソルドはSS1でセカンドベスト、SS4でサードベストをマークし、初日を2位で終えると、2日目には絶えずサードベスト以内に食い込む走りでも2位をキープしつづけ、表彰台を獲得した。一方、チームメイトのカンパーナはマシンに慣れるべく、ラリー序盤はやや慎重な走りに徹し、初日は8位でフィニッシュ。しかし、2日目は上位陣の脱落で7位に浮上するほか、4日目にはSS17で4番手タイムをマークするなどペースアップを実現。7位入賞を果たした。

machine

MINI JCW WRC



## 37 ダニ・ソルド

● Dani Sordo (ESP)

DAY1:2位/DAY2:2位/DAY3:2位/DAY4:2位/DAY5:2位  
難しいラリーだった。4日目は少し“眠っていた”からベターに詰められてしまったけど、結果には満足している。3日目の雪のSS12での判断で勝負が決まったと思っている。ここでベターはタイムを落とした。正直に言うと、自分はラリーをとおして少し慎重になりすぎてしまった。あのステージがなければ、もっと接近していたはずだ。この新しいチームで2度目の2位となれたのは本当に素晴らしいことだと思っている。



## 52 ピエール・カンパーナ

● Pierre Campana (FRA)

DAY1:8位/DAY2:7位/DAY3:7位/DAY4:7位/DAY5:7位  
ラリーをとても楽しく走ることができた。結果は自分にとって非常に良く、毎日スキルを向上させることもできた。クルマはとても良い印象で、自身最高位のWRCでのリザルトにも満足している。パワーステージは非常に狭くツイスティで、困ったことにパワーステアリングのトラブルがあり、曲がるのに少し苦労した。3日目にSS12でローブに次ぐ、サードベストをマークできたことがうれしかった。



# DATA & RESULTS [データ&リザルト]

WRC Round.1 / SWRC Round.1 / PWRC Round.1

## RESULT

総合順位	クラス順位	No.	ドライバー/コドライバー	マシン	チーム	タイム(差)	獲得ポイント
1	M-1	1	S.ロープ/D.エレナ	シトロエンDS3 WRC	シトロエン・トタルWRT	4:32:39.9	D25+PS3/M25
2	M-2	37	D.ソルド/C.デルバリオ	MINIジョン・クーバー・ワークスWRC	MINI WRT	+2:45.5	D18/M18
3	M-3	4	P.ソルベルグ/C.バタートン	フォード・フィエスタRS WRC	フォードWRT	+3:14.2	D15/M15
4	M-4	2	M.ヒルボネン/J.レーティネン	シトロエンDS3 WRC	シトロエン・トタルWRT	+4:06.8	D12+PS2/M12
5	M-5	6	E.ノビコフ/D.ジロウデ	フォード・フィエスタRS WRC	Mスポーツ・フォードWRT	+6:03.4	D10+PS1/M10
6		8	F.デルクール/D.サビニョーニ	フォード・フィエスタRS WRC	Mスポーツ・フォードWRT	+7:47.9	D6
7	M-6	52	P.カンバーナ/S.キャステリ	MINIジョン・クーバー・ワークスWRC	MINI WRT	+8:31.4	D6/M8
8	M-7	5	O.タナク/K.シック	フォード・フィエスタRS WRC	Mスポーツ・フォードWRT	+10:34.6	D4/M6
9		21	M.プロコップ/Z.ハルザ	フォード・フィエスタRS WRC	チェコ・フォード・ナショナルチーム	+16:10.7	D2
10	M-8	12	A.アラウジョ/M.ラマルホ	MINIジョン・クーバー・ワークスWRC	アルモンド・アラウジョWRT	+16:16.6	D1/M4
11		9	M.ウルソン/S.マティン	フォード・フィエスタRS WRC	ゴー・ファースト・エナジーWRT	+18:51.0	
12		17	K.アブリング/L.バネステ	シュコダ・ファビアS2000	フォルクスワーゲン・モータースポーツ	+18:56.3	
13		10	H.ソルベルグ/L.ミニア	フォード・フィエスタRS WRC	ゴー・ファースト・エナジーWRT	+20:16.3	
14	S-1	32	C.グリーン/G.ロバーツ	フォード・フィエスタRS WRC	クレイグ・グリーン	+24:26.3	S25
15		16	B.フイエ/X.バンセリ	ブジョー207 S2000	ブライアン・フイエ	+27:25.4	
16		22	M.プーリ/S.レイ	ブジョー207 S2000	セインテロック・レーシング	+30:19.5	
17		71	C.ロバート/Y.ベレット	シトロエンDS3 R3T	セドリック・ロバート	+32:27.7	
18		24	O.プーリ/J.フェレロ	三菱ランサーエボリューションX	オリビエ・プーリ	+35:30.5	
19		76	S.シャルドネ/T.デラハイエ	ルノー・クリオR3	セバスチエン・シャルドネ	+36:55.3	
20	M-9	14	P.ノブレ/E.パウラ	MINIジョン・クーバー・ワークスWRC	バルネイリン・ラリー	+38:59.7	M2
21		19	J.メリチャレク/I.バチガル	ブジョー207 S2000	ヤロルザフ・メリチャレク	+44:23.2	
22		80	B.ラトゥール/J.C.デルカンブレ	シトロエンDS3 R3T	ベルラン・ラトゥール	+44:57.7	
23		82	F.シアス/T.バリシエラ	シトロエンDS3 R3T	フランクシアス	+45:58.0	
24		75	L.コレレ/J.バロン	ホンダ・シビックタイプR R3	ライオネル・コレレ	+46:33.4	
25		53	R.フラウ/F.ブクラ	三菱ランサーエボリューション	リチャード・フラウ	+49:15.7	
26		73	N.レセゲ/J.アルメー	ルノー・クリオR3	ニコラ・レセゲ	+51:14.3	
27		30	S.コルヌ/F.ネデル	ルノー・メガーヌRS	ステファン・コルヌ	+51:35.7	
28		51	J.エイマー/S.エイマー	スバル・インプレッサWRX STI	ジェローム・エイマー	+54:31.9	
29		93	J.P.ガッティ/B.シャグー	ブジョー206XS	ジャン・ピエール・ガッティ	+102:28.9	
30	P-1	131	M.コシュツコ/M.スチュパニアク	三菱ランサーエボリューションX	ロトス・ダイナミック	+102:34.9	P25
主要タイア	M	3	J.M.ラトバラ/M.アンティラ	フォード・フィエスタRS WRC	フォードWRT	SS4/アクシデント	
		11	P.V.メルクシュタイン/E.チェバリエ	シトロエンDS3 WRC	バン・メルクシュタイン・モータースポーツ	SS5/メカニカル	
		15	S.オジエ/J.イングラシア	シュコダ・ファビアS2000	フォルクスワーゲン・モータースポーツ	SSI0/アクシデント	
		23	T.ヌービル/N.ジルソウル	シトロエンDS3 WRC	シトロエン・ジュニアWRT	SS4/ホイール破損	
	S	33	F.G.アンダーソン/E.アクセルソン	プロトン・サトリアネオS2000	プロトン・モータースポーツ	SS16/出火	
S	34	G.バットン/M.トッター	プロトン・サトリアネオS2000	プロトン・モータースポーツ	SS1/アクシデント		

※D=ドライバー、PS=パワーステージ、M=メニュファクチャー、S=SWRC、P=PWRC

## SS WINNER

SS	ステージ名	距離	WRC			PWRC			SWRC				
			ウイナー	マシン	タイム 総合トップ	ウイナー	マシン	タイム PWRCTOP	ウイナー	マシン	タイム SWRCTOP		
SS1	LE MOULINON-ANTRAIGUES	36.87km	S.ロープ	シトロエンDS3 WRC	24:04.0 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	24:56.2	B.フイエ	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	26:58.9	M.コシュツコ
SS2	BURZET-ST MARTIAL	30.48km	J.M.ラトバラ	フォード・フィエスタRS WRC	21:28.2 J.M.ラトバラ	P.G.アンダーソン	プロトン・サトリアネオS2000	22:43.1	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	23:52.0	M.コシュツコ
SS3	LE MOULINON-ANTRAIGUES	36.87km	S.ロープ	シトロエンDS3 WRC	23:47.0 J.M.ラトバラ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	24:36.4	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	26:48.0	M.コシュツコ
SS4	BURZET-ST MARTIAL	30.48km	S.ロープ	シトロエンDS3 WRC	20:18.2 S.ロープ	P.G.アンダーソン	プロトン・サトリアネオS2000	21:36.4	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	23:20.3	M.コシュツコ
SS5	LABATIE D'ANDAURE-LALOUVESC	19.00km	S.ロープ	シトロエンDS3 WRC	11:22.5 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	11:55.2	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	12:45.8	M.コシュツコ
SS6	ST BONNET-ST JULIEN	25.22km	S.ロープ	シトロエンDS3 WRC	12:37.7 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	13:19.8	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	14:30.1	M.コシュツコ
SS7	LAMASTRE-GILHOC-ALBOUSSIERE	21.66km	S.ロープ	シトロエンDS3 WRC	13:41.8 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	14:25.8	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	15:18.7	M.コシュツコ
SS8	LABATIE D'ANDAURE-LALOUVESC	19.00km	D.ソルド	MINI JCW WRC	11:14.9 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	11:58.6	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	12:55.6	M.コシュツコ
SS9	ST BONNET-ST JULIEN	25.22km	S.ロープ	シトロエンDS3 WRC	12:29.6 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	13:19.8	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	14:39.1	M.コシュツコ
SS10	LAMASTRE-GILHOC-ALBOUSSIERE	21.66km	S.ロープ	シトロエンDS3 WRC	14:00.1 S.ロープ	P.G.アンダーソン	プロトン・サトリアネオS2000	15:10.6	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	16:30.4	M.コシュツコ
SS11	ST JEAN EN ROYANS-FONT D'URLE	23.28km	P.ソルベルグ	フォード・フィエスタRS WRC	12:08.6 S.ロープ	P.G.アンダーソン	プロトン・サトリアネオS2000	12:57.0	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	13:52.6	M.コシュツコ
SS12	CIMETIERE DE VASSIEUX-COL DE GAUDISSART	24.13km	M.ヒルボネン	シトロエンDS3 WRC	15:47.7 S.ロープ	P.G.アンダーソン	プロトン・サトリアネオS2000	17:25.8	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	20:40.7	M.コシュツコ
SS13	MONTAUBAN SOUVEE-EYGALAYES	29.89km	M.ヒルボネン	シトロエンDS3 WRC	17:08.2 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	17:48.4	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	19:00.3	M.コシュツコ
SS14	MOULINET-LA BOLLENE VESUBIE	23.41km	M.ヒルボネン	シトロエンDS3 WRC	15:38.4 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	16:07.6	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	17:48.3	M.コシュツコ
SS15	LANTOSQUE-LUCERAM	18.81km	P.ソルベルグ	フォード・フィエスタRS WRC	12:57.0 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	13:18.3	P.G.アンダーソン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	20:05.4	M.コシュツコ
SS16	MOULINET-LA BOLLENE VESUBIE	23.41km	P.ソルベルグ	フォード・フィエスタRS WRC	15:45.5 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	16:18.5	C.グリーン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	22:38.0	M.コシュツコ
SS17	LANTOSQUE-LUCERAM	18.81km	P.ソルベルグ	フォード・フィエスタRS WRC	13:05.8 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	13:27.3	C.グリーン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	19:15.9	M.コシュツコ
SS18	STE AGNES-COL DE LA MADONE	5.16km	S.ロープ	シトロエンDS3 WRC	3:27.8 S.ロープ	B.フイエ	ブジョー207 S2000	3:34.2	C.グリーン	M.コシュツコ	三菱ランサーエボリューションX	3:53.6	M.コシュツコ



# POINT STANDINGS [ポイントスタンディング]

## DRIVERS WRC CLASSIFICATION ドライバースポイントスタンディング

POS	DRIVER	MCO	SWE	MEX	PRT	ARG	GRC	NZL	FIN	DEU	GBR	FRA	ITA	ESP	TOTAL
1	セバスチャン・ローブ (FRA)	28 (1位+1位)													28
2	ダニ・ソルド (ESP)	18 (2位)													18
3	ペター・ソルベルグ (NOR)	15 (3位)													15
4	ミッコ・ヒルボネン (FIN)	14 (4位+2位)													14
5	エフゲニー・ノビコフ (RUS)	11 (5位+3位)													11
6	フランソワ・デルクール (FRA)	8 (6位)													8
7	ピエール・カンパナ (FRA)	6 (7位)													6
8	オット・タナク (EST)	4 (8位)													4
9	マルティン・プロコップ (CZE)	2 (9位)													2
10	アルミンド・アラウジョ (PRT)	1 (10位)													1

## CO-DRIVER WRC CLASSIFICATION コ・ドライバースポイントスタンディング

POS	Co-DRIVER	MCO	SWE	MEX	PRT	ARG	GRC	NZL	FIN	DEU	GBR	FRA	ITA	ESP	TOTAL
1	ダニエル・エレナ (MCO)	28 (1位+1位)													
2	カルロス・デル・バリオ (ESP)	18 (2位)													
3	クリス・バタソン (GBR)	15 (3位)													
4	ヤルモ・レーティネン (FIN)	14 (4位+2位)													
5	デニス・ジロウデ (FRA)	11 (5位+3位)													
6	ドミニク・サビニューニ (FRA)	8 (6位)													
7	セブリナ・ド・キャストリ (FRA)	6 (7位)													
8	クルダー・シック (EST)	4 (8位)													
9	ゼネク・ハルザ (CZE)	2 (9位)													
10	ミゲル・ラマルホ (PRT)	1 (10位)													

## MANUFACTURER WRC CLASSIFICATION マニファクチャラーズポイントスタンディング

POS	MANUFACTURER	MCO	SWE	MEX	PRT	ARG	GRC	NZL	FIN	DEU	GBR	FRA	ITA	ESP	TOTAL
1	シトロエン・トタルWRT	37 (1位/4位)													37
2	MINI WRT	26 (2位/8位)													26
3	Mスポーツ・フォードWRT	16 (5位/7位)													16
4	フォードWRT	15 (3位/a)													15
5	アルミンド・アラウジョWRT	4 (8位)													4
6	バルメイリン・ハラー	2 (9位)													2

獲得ポイント 順位 パワーステージ順位 獲得ポイント 順位

20 (6位+2位) 22 (4位/5位)

R: リタイア m: メカニカル a: アクシデン x: 失格 w: 撤退

1位: 25	2位: 18	3位: 15	4位: 12	5位: 10
6位: 8	7位: 6	8位: 4	9位: 2	10位: 1

1位: 3	2位: 2	3位: 1
-------	-------	-------

国籍一覧  
 FRA=フランス FIN=フィンランド  
 NOR=ノルウェー GBR=イギリス  
 ARG=アルゼンチン ESP=スペイン  
 CZE=チェコ EST=エストニア  
 PRT=ポルトガル MCO=モナコ  
 RUS=ロシア





好評  
連載

ペター・ソルベルグの

今シーズン、フォードに移籍したペター  
久々のワークスチーム復帰ということで  
期待しているファンも多いはず  
ペターもかなりいい感触をもったようだ

Photos Naoki Kobayashi, FORD

## これほど良いフィーリングを感じたのは、2004年のインプレッサWRC以来だよ!

SS22

やあ、みんな。ハッピーニューイヤー! この言葉  
をこの場所で言うことができて本当にうれしいよ。

去年の11月、ラリーグレートブリテンの時は明るい  
気持ちで新年を迎えられるかどうかまったく分からなかつた。  
かなり追い込まれた状況で、ちょっとネガティブな発言が多  
かったかもしれないね。ゴメンよ。でも、あの時は何も決ま  
っていなかったし、この先WRCを戦い続けられるかどうかま  
ったく分からなかったんだ。オレたちのペター・ソルベルグ・  
ワールドラリーチームは深刻な資金不足で、プライベートー  
として今後も活動を続けられるような状況ではなかった。選  
択肢はどこかのワークスチームに入るか、WRCをやめるかのふ  
たつだけ。しばらく何も決まらない状態が続いたけれど、オレ  
なりになんとかしようとする努力は続けた。あの時チャンスが  
あったのはフォードとフォルクスワーゲンの2チームで、すべ  
てはセ



FORD

スバルへ移籍した時にはMスポーツ代表のマルコム・ウィルソンとの確執がさ  
やかれたが、それももう過去のこと。関係は良好のようだ。

ペターのフォード移籍は世界中のメディアからも注目されて  
いた。取材も殺到。セカンド待遇とはいえ、早くも「優勝」が待  
ち遠しい。



FORD

N.Kobayashi



多少のミスもあったが、ベストタイムもマークしての3位は上々の滑り出し。ペターも久しぶりにボディウムフィニッシュで喜びを爆発させた。

バスチャン・オジエの動向次第だった。オジエはフォードとフォルクスワーゲンで最後まで迷っていたようだけれど、最終的にはフォルクスワーゲンを選んだ。そこでオレはフォードにターゲットを絞り交渉を続けた。

フォードがオレを選ぶ際のネックとなっていたのは、セカンドドライバー待遇となること。去年ヤリ・マティ・ラトバラは大きく成長したし、エースとして戦う権利があることは分かっていた。だから、オレは別にセカンドドライバー扱いでも構わなかった。プライベートーとして不安定な体制で戦い続けるよりも、ワークスのセカンドの方が勝てるチャンスは絶対に大きいからね。

なんとか話がまとまり、初めてフォード・フィエスタRS WRCをテストした時はなんというか強い手ごたえを感じた。その時は色々問題があったけれど、モンテカルロの直前にもう一度テストをして確信したよ。フィエスタRS WRCは良いマシンだってね。でも、実際にラリーモンテカルロのコースで走ってみたら、想像していたよりもはるかに素晴らしいマシンであることが分かったんだ。とにかく運転が楽しくていうか、特別なことをしなくともちゃんと走ってくれるし自由自在なんだ。これほど良いフィーリングを感じたのは2004年のスバル・インプレッサWRC以来で、運転しながら思わずうれしくなって笑ってしまったほどだよ。オレはなんて良いマシンに巡りあえたのだろう、フォードに入って本当に正解だったと思った。

ラリー本番ではタイヤ選りを1回ミスって遅れてしまったけれど、ベストタイムもセバスチャン・ローブに次ぐ4回も出すことができたし、初戦で3位っていうのは悪くない結果だ。ターマックでもこんなに良く走るんだから、グラベルではもっといけるはずだ。まだ雪道もグラベルも走ってはいないけれど、今から楽しみでしようがないよ。今年は、ここ数年で最も良い1年になる気がするんだ。この場所で最高の結果を報告できるよう頑張るから、どうか今シーズンも応援よろしく。それじゃあまた次回、ラリースウェーデンの時に会おう!



# PHOTO FLASH

from Monte Carlo

Photos Naoki Kobayashi, Izumi Hiromoto



## 雪がない!

モンテカルロは雪と氷の特殊ターマックなんだけど、今大会は暖冬の影響でほとんど雪なしの状態。アクセス路は雪で“通行止め”なのに、ステージは普通のターマック……というシチュエーションも多く、コバヤンも「いい写真が撮れなかった」と嘆いておりました。



## さすがチュリニは 雰囲気満点

これはチュリニ峠にあるカフェレストランの壁にかかっていた、歴代のラリープレート。さすがモンテ、街中のカフェのウィンドウにラリーカーのミニカーが飾られていたり、こういうところがうれしくなっちゃいます。



## ギャラリーもエキサイティング!

ラリーモンテカルロには数多くのギャラリーがステージに集結。道を塞いでキャンセル……ということにはならなかったけれど、平日からかなりの来場数で、ナイトステージはエキサイティングしていた。ちなみにジャーナリストのコガッチによれば「やっぱりIRCよりWRCの方が観客は多い」とのことだ。



俺たち速いよな?

もうこれ以上は  
ムリっすよ!

## ラリーモンテカルロ定食

ステージの麓はもちろん、リエゾンとして通過する小さな村まで、ラリーウィークはお祭り騒ぎ。小さなレストランに立ち寄ってみると「ラリーモンテカルロ定食」みたいなメニューも設定されているゾ。試しに頼んでみると、メインの Pasta はやっぱり「うどん」の状態……。敗北感に包まれた瞬間だった。



## ギャラリーもエキサイティング!

フォードのワークス活動を担うMスポーツはワークスチームの「フォードWRT」のほか、ふたつのカスタマーチームを投入。ひとつはデルクール、ノビコフ、タナクの「Mスポーツ・フォードWRT」で、もうひとつはヘニングとマシューの「ゴー・ファースト・エナジーWRT」だ。その名のとおり、エナジードリンクがメインスポンサーなんだけど、直訳すると「速く行け!」。ヘニングとマシューにとっては耳が痛い!?





こんにちは、毎度おなじみラリプラです。

# ラリプラ通信

初めての会員制サービスを強行して1年弱……  
気合いと根性でラリプラ2年目に突入しました！  
2年目の抱負ですか？ 日本メーカー復帰に向けた裏工作、とかにしておきましょう(笑)

## お初の方も2年目の方も、Happy New Year! ラリプラ、セカンドシーズン開幕です!

というわけで、2012年一発目の RALLY PLUS、いかがでしたでしょうか! 「あ、もしかして髪切った?」「分かる? 1センチ切ったのー」みたいなプチリニューアルですが、無事スタートすることができました。継続のお申し込みもたくさんいただき、ありがとうございました! 今年も精進して参ります。

さて、久々のモンテカルロ。雪こそ少なかったものの「これぞWRC開幕戦」という華やかさ、伝統を感じる写真たち、デルクールのようにそこにいるだけで絵になるスポットドライバーの登場など、やっぱりイイですね、モンテ。

しかし今年は年末年始にかけてFIAがノースワンスポーツとの契約を破棄し、WRC.comは止まるわ、映像制作も一時ストップするわと、水面下でFIAとACM(モンテカルロの主催者)がバタ足を繰り返した結果の開催だったようで。我々も「WRC PLUS」と「RALLY PLUS」を並行して作るというドタバタした年明けでしたが。

リザルトはACMから直接出され、ポイントスタンディングなどの情報はFIAのサイトに直接出ています。今後どうなるかは分かりませんが、ウェブから情報が欲しい方はこの辺をチェック。あ、RALLY PLUS.NETもお忘れなく。

さて、今回はモンテカルロ終わりに届いた感想メールをご紹介します。プレゼントの応募以外でも、こんなふうにつぶやきとか送ってくれたらうれしいなあ。

「モンテカルロ、WRCはMINIも参戦したからまあいいですよ。問題はSWRCとPWRC。なんです、あの台数は!? Sは完走=優勝、PなんてエゴXvsフィエスタでフィエスタが2位18点獲得!? なんか興奮でした……(北海道・3DHBさん)」

実はモンテってそんなにサブカテゴリー出てこないんですね。走ってはいくらけどエントリーする人は少なめで。PやSは3月までレイトエントリーが認められているからまだ余裕もありますし。

ただ、モンテは「完走する」のも難しく、一般人が旅行で移動するのはワケが違いますし、1SSあたりが長い! 優勝したコシュツコさんとブリーンくんには、素直に祝福を贈りましょう。

すったもんだのストーブリーグについて

ではこんな声が。

「ミッコの移籍は、バトルが減ってしまうのではないかと正直残念。でも意外に、オジエみたいにガツガツ行ってくれたりして。2011年終盤のシトロエンを見てると、内輪探めには弱い気がするの、チーム内バトルには一日の長がありそうなミッコが確信犯的に引っかきまわすと、さすがのローブも対オジエみたくには言えないのではないだろうか。“ちょいワルのミッコ”って期待できないスかねえ(東京都・BINNさん)」

スバル時代もフォード時代も常にいい子ちゃんだったミッコ。そういえば去年は、トラブル復帰時にローブの前に割り込んで激怒させ、後半のSSでわざわざローブに道を譲るなんてこともありましたね。個人的にはアレがミッコを引き入れた理由かも、なんて邪推したりして。「選手もそうですが、実はシトロエンのオリビエ・ケネルもプロドライブのデイビッド・リチャーズも退いたんですね。ちょっと変わったストーブリーグ、今年の戦線にどう影響するかも気になります(東京都・BRZ WRCさん)」

まあ、手腕は認めるにしても、どっちも色々な評価があるということで(苦笑)。そんなわけで、今年もゆるーくWRCをお伝えしていきます。お楽しみに!

俺はまだ辞めれん!  
息子がアレだからな

D.Rもケネルも俺に怖気づいたな

3社3様、事情は様々。でも、モンテではふたりともコキゲンでした。



### 写真でひとこと

今年は注目必至のVWのオジエチームが変わってもありのままで更なる高飛車発言に期待したいです

あ、ローブだ

(ビクッ)!!!

やだー  
お尻少したるんでー



群馬県のミシェル斉藤さん。そろそろ気になるお年頃? そういえばWRCにはオネエ系とかいませんね。

家外小心者という予想? 東京都のnms\_ichiさん。実は立ち●ンしてたりして……。

次号のお題  
ニヤニヤするオジエ  
ラリー直前に  
どんな電話が?

ドンマイ、ドンマイ  
まあ、来シーズンはオーダーとかがなく  
気持ち良く走れるからさ

長野県のかーくぼさん。「まあ、お前ともオサラバだけどな」とか考えてそうな(笑)。



## PRESENT

今号のキーワード  
コンサントラシオン

### 01 ラリーモンテカルロ2012 ラリープレート



ラリーのシンボルとも言えるラリープレート。現地ではか手に入らないその第80回ラリーモンテカルロ版ラリープレートを1名様に。モンテカルロと言えばコレで決まり。

■応募方法: キーワード、連絡先、感想などを下記欄外のURLもしくはメール(rallyplus.net@gmail.com)へご応募ください。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

応募締切  
2月6日(月)

J SPORTS放送予定		※「J SPORTS 3」の初回放送のみ掲載。再放送や詳しい日程はウェブサイトで。http://www.jsports.co.jp/
2/3(金)	23:50~24:05	WRCの裏側 ~古賀ツチ写真館別館~ #1 モンテカルロ篇
2/11(土)	23:00~23:05	[Zone22]WRC速報! 2012 DAY1 スウェディッシュ・ラリー(スウェーデン)
2/12(日)	20:00~21:30	ダカール・ラリー2012[アルゼンチン~チリ~ペルー] 総集編
2/12(日)	23:00~23:05	[Zone22]WRC速報! 2012 DAY2 スウェディッシュ・ラリー(スウェーデン)
2/13(月)	22:50~22:55	[Zone22]WRC速報! 2012 DAY3 スウェディッシュ・ラリー(スウェーデン)
2/14(火)	19:00~20:00	WRC世界ラリー選手権2012 パワーステージ Round2 ウェディッシュ・ラリー(スウェーデン)
2/19(日)	15:16~16:30	WRC世界ラリー選手権2012 Round2 スウェディッシュ・ラリー(スウェーデン)
2/24(金)	21:30~21:45	WRCの裏側 ~古賀ツチ写真館別館~ #2 スウェーデン篇

ご意見・ご感想などの投稿、プレゼントの応募はこちらから! <http://www.rallyplus.net/>



## WRC

### プロモーター不在のままWRC開催 有力なのはユーロスポーツイベント



N.Kobayashi

ラリーモンテカルロ直前の1月8日、FIAはWRCプロモーターであるノースワンスポーツ（以下NOS）とのプロモーター契約解除を通知した。その理由についてFIAは契約上の義務を果たし、来たる2012年以降のWRCのプロモーションを行なえるというNOSからの保証を求めたが、NOSがこれに応えることができなかったためという。

ラリーモンテカルロの現場で行なわれた記者会見で、FIA会長のジャ

ン・トッドはIRCのオーナーであるユーロスポーツイベントと話し合いをしていることを明らかにした。リースウェーデン前には発表できるとしている。

開幕直前にもかかわらず、世界選手権のプロモーターが決まっていないという前代未聞の状況だったが、IRCで実績のあるユーロスポーツがプロモーターに決まれば、色々な意味で新たな展開が期待できるかもしれない。

## EVENT

### 「新井敏弘ファンの集い2012」開催 今年も65人のファンと大盛り上がり!



T.Nakajima

毎年恒例となっている「新井敏弘ファンの集い2012」が、1月14日（土）に千葉県のホテルスプリングス幕張で開催された。毎年東京オートサロンの日程にあわせて開催されているこのイベント、今年も65人のファンとアットホームな雰囲気の中、大爆笑のトークショーやジャンケン大会が行なわれた。今年はIRC、スーパー耐久、そして全日本ラリー群馬戦を盛り上げたいとファンに語った。

7月には新井選手のチームが主催する、群馬県では久々となる「モンレーin渋川」を開催予定だ。



T.Nakajima

ゲストとして全日本ラリーチャンピオンの勝田範彦選手&足立さやか選手も来場。

## IRC

### SUPER GTとニュルだけじゃない! スバル、国際ラリー活動の継続発表



RALLY PLUS

1月13日、スバル/STIは東京オートサロンの会場で、2012年のモータースポーツ活動について発表、国際ラリー活動についても言及した。

車両の面では、インプレッサのグループN仕様とR4仕様について、空力と重量配分に優れた4ドアモデルを新たに設定。ドライバーの好みとステージの特性に合わせて選択できるようにすることだ。

また、IRCプロダクションカップタイトルの連覇を目指し、IRCへの

マニファクチャラー登録を継続。2012年は新井敏弘に加え、フィンランドのヤルコ・ニカラ、オーストリアのアンドレアス・アイグナーらを支援する旨が発表された。

さらに、PWRCに参戦するカスタマーへの活動支援「SUBARUチャレンジアワード」を引き続き設定。各イベント/シーズンの上位3位まで表彰を行なうが、2012年はさらなるカスタマーの拡大を目指し、総額で20%増額されている。

## EVENT

### 選手と一緒にイベントにも参加できる 日本で唯一のスノーラリー開催



RALLY PLUS

「BICC Rally of Tsumagi」が2月3～4日に群馬県嬬恋村で開催される。今年はギャラリーステージが変更され、3日（金）はバラギ湖周辺、4日（土）はバラギ高原に設定。ラリー後の土曜日の夜には、選手も参加する食事付きの表彰パーティーに参加可能だ（6500円）。さらに5日（日）にはホテルグリーンプラザの特設会場でデモ走行&体験同乗走行会も実施する予定だ（参加費無料）。

本州で最も早い時期に開催されるとあって、全国から有力選手が練習と新年会(?)を兼ねて参加することでも有名だ。



RALLY PLUS

運がよければナビシートで異次元の雪上ドリフトを体験できるチャンスも。



**あ**けましておめでとうございます。って、もうおそいか。ここ数年、WRCからモンテカルロが外れていたため、モナコに来るのは久しぶりですが、やっぱり何度来てもワクワクしますね。

でも開幕戦はたっぷり宿題があるし、おまけに今年のモンテカルロは5日間の長丁場。移動距離もハンパじゃないので、大変なことになるなー、とイヤな予感はしていたものの……実際は予想以上でしたね（苦笑）。

じつは、前兆はその前週から始まっています。今年ラリーモンテカルロ直前の1月13～15日に毎年恒例の東京オートサロンが行なわれていて、僕は搬入日から泊まり込みで撮影をしたその足で、日曜日の夜便でフランスに向かうため成田へ直行。飛行機のなかでつかの間の休息（ひたすらぐーぐー寝ていただけ）をとると、翌朝10時頃にリヨンに



N.Kobayashi

### モナコのご・は・ん

モナコでたんまり美味しいモノを食べていたんじゃないかと編集部に恨まれていますが、そんな時間はありませーん。というわけでコメンなさい。今回紹介するのは、クロワッサンショ

コラです。えっ？ 日本でも買える？ フランスはパンが美味しいので、良さそうなパン屋さんを見つけるとよく寄って買い食います。外はサクサク、中はしっとり、美味しかったです。

到着。そこから約120kmほどレンタカーを走らせてバランスの街を目指します。まずプレス受付でバスを受け取り、魅力的なランチの誘いを振り切って、そのままサービスパークで撮影撮影撮影撮影撮影撮影撮影……。月曜日から全開で撮って送って撮って送って、もうへろへろでした。ああ眠い。でもまあ、コガッチはその前にタカールラリーの取材に行ってるから、さらにだけどね。

こうしているうちにモナコに着いてしまったので、まあいいや、明日どこかで入れようと思ったのが運のツキでした。

翌日、チュリニは午後3時のステージだったので、レッキをするために少し早めの朝9時にホテルを出たからまだよかった。チュリニを目指していくうちにどんどん山道になって、この先行っても山しかない……ということろまできて……そう、ガソリンスタンドが

コバヤコ

WRCを追っかけ、世界各国で泥だらけ!?

# 取材顛末記

カメラマンのコバヤンとラリージャーナリストのコガッチ。お馴染みの本誌WRC取材陣が世界中で繰り広げるズッコケ珍道中をお届けします

## 第1戦 モンテカルロ編

ラリーモンテカルロのポストカードにラリーカーのミニカー。カフェのショーウィンドウもラリーっぽい。



N.Kobayashi



左はコガッチ、中央はRace&Motionのふたり。美味しいレストランを教えてもらっているところです……。

さて今回は、肝を冷やすような事件がありました。いやホントに。ラリー3日目、バランスからモナコに移動する際、リエゾンを撮影しながら下道を使って帰ってこよう、と思ってコガッチとヒロと3人で400kmくらいの道程を高速道路を使わずに5時間ほどかけてモナコに戻ってきました。途中でガソリンが空になりかけてるな、と思ったのですが、近くにガソリンスタンドもなかったし、そう

ないんです！ まずいな、まずいなと思っているうちに、いよいよレンタカーの燃料警告灯が点灯から点滅に変わり、これはヤバい！ ということでイチカバチか、ふもとの街まで引き返すことに。

こういう時、頼りになるのがコガッチ。「慣れるから（ナゼ？）」ってことで運転を代わってくれ、下りはレンタカーのエンジンを切って惰性でドライブ。でもエンジンを切るとパワステがきかないので、ステアリングが重～くてなかなかきれなくなるんですが、コガッチは「あー」とか「うー」とか言いながら頑張ってくれました。

そんなこんなでなんとか麓の街にたどり着き、街の人にすがるように聞いたら「ガソリンスタンド？ 500m先にあるよ」だって。あああ～～～よかった。いつも気をつけているつもりでしたが、大反省です。山道をロングドライブしなきゃいけないラリーで、ガソリンを我慢するのは禁物です。みなさんも気をつけてください……。

### [モナコの街] モンテカルロ

僕がご紹介するまでもありません、麗しのモナコです。今回はラリー3日目にバランスから大移動してきて、ポティウムは王宮前、サービスパークはヨットハーバー。やっぱりWRCはモンテカルロが最高ですね。絵になります。写真はお決まりですが、王宮前の丘から撮影した港。観光スポットになっています。今回、泊まっていたホテルは、モナコの山側からほんの少しだけ国境を越えたフランス領。国境を越えるだけで、物価が安い！



N.Kobayashi



# RALLY<sup>+</sup>PLUS vol.11

## WRC Round.01 Rallye Monte Carlo

### CONTENTS

- 2 PHOTO GALLERY Rallye Monte Carlo
- 6 WINNER'S TALK — セバスチャン・ローブ
- 8 RALLY REPORT — 復活のモナコはタイヤ選択が鍵に
- 16 PIN UP — FORD FIESTA RS WRC
- 18 [好評連載] ミシェル・リザンのpoint of view
- 20 PWRC & SWRCレポート
- 22 TEAMS & DRIVERS
- 24 DATA&RESULT / POINTSTANDINGS
- 26 [好評連載] ペター・ソルベルグのNEVER GIVE UP!
- 27 PHOTO FLASH from Monte Carlo
- 28 ラリプラ通信
- 29 NEWS & TOPICS
- 30 取材顛末記 — モンテカルロ編

### STAFF

EDITORIAL MANAGER 河野 亜希子 Akiko KONO  
 EDITORIAL STAFF 中山 潤哉 Junya NAKAYAMA  
 武井 英貴 Hidetaka TAKEI  
 藤田 耕介 Kosuke FUJITA  
 古賀 敬介 Keisuke KOGA  
 廣本 泉 Izumi HIROMOTO  
 PHOTOGRAPHER 小林 直樹 Naoki KOBAYASHI  
 DESIGN 原 靖隆 Yasutaka HARA  
 TRANSLATOR 鍛代達也 Tatsuya KITAI  
 PRINTING 伊藤 敬子 Keiko ITO  
 株式会社ダイトー DAITO

発行：RALLY PLUS運営事務局 〒213-0002 川崎市高津区二子5-5-21-202  
 ホームページURL：http://www.rallyplus.net/

本誌内の記事・写真・イラスト等の無断転載を禁じます  
 ©RALLY PLUS All rights reserved. Reproduction of any article or illustration  
 without the written permission of the publisher is strictly prohibited.

### NEXT ISSUE 次号予告

## WRC Round.02 Rally Sweden

9-12 February 2012

ラリースウェーデン号は  
2月17日(金)発送予定です



COVER PHOTO  
Sebastien Loeb

Photo by  
Naoki Kobayashi

### 2012 SEASON SCHEDULE

[シーズンスケジュール]

#### WRC [世界ラリー選手権]

Rd	開催日	開催地	ウィナー
1	1/17-22	モンテカルロ	S.ローブ/D.エレナ(シトロエン)
2	2/9-12	スウェーデン	
3	3/8-11	メキシコ	
4	3/29-4/1	ポルトガル	
5	4/27-29	アルゼンチン	
6	5/25-27	アクロポリス	
7	6/22-24	ニュージーランド	
8	8/2-5	フィンランド	
9	8/24-26	ドイツ	
10	9/13-16	グレートブリテン	
11	10/4-7	フランス	
12	10/18-21	イタリア	
13	11/1-4	スペイン	

#### SWRC [S2000世界ラリー選手権]

Rd	開催日	開催地	ウィナー
1	1/17-22	モンテカルロ	C.ブリーン/G.ロバーツ(フォード)
2	2/9-12	スウェーデン	
3	3/29-4/1	ポルトガル	
4	6/22-24	ニュージーランド	
5	8/2-5	フィンランド	
6	9/13-16	グレートブリテン	
7	10/4-7	フランス	
8	11/1-4	スペイン	

#### PWRC [プロダクションカー世界ラリー選手権]

Rd	開催日	開催地	ウィナー
1	1/17-22	モンテカルロ	M.コシュツコ/M.スチュパニャク(三菱)
2	3/8-11	メキシコ	
3	4/27-29	アルゼンチン	
4	5/25-27	アクロポリス	
5	6/22-24	ニュージーランド	
6	8/24-26	ドイツ	
7	10/18-21	イタリア	
8	11/1-4	スペイン	

#### APRC [アジア・パシフィックラリー選手権]

Rd	開催日	開催地	ウィナー
1	3/31-4/1	ニュージーランド(P)	
2	4/28-29	ニューカレドニア(P)	
3	5/26-27	オーストラリア(P)	
4	7/14-15	マレーシア(A)	
5	9/15-9/16	北海道/日本(A)	
6	11/3-4	中国(A)	

\*A=アジアカップ、P=パシフィックカップ

#### JRC [全日本ラリー選手権]

Rd	開催日	開催地	ウィナー
1	4/6-8	ツール・ド・九州2012in唐津/佐賀	
2	4/28-30	久万高原ラリー/愛媛	
3	6/1-3	がんばろう!福島MSCCラリー/福島	
4	6/29-7/1	ARKラリー洞爺/北海道	
5	7/20-22	モンレーin渋川/群馬	
6	8/24-26	丹後半島ラリー/京都	
7	9/14-16	RALLY HOKKAIDO/北海道	
8	10/12-14	M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ/岐阜	
9	11/2-4	新城ラリー/愛知	



ラリー好きなあなたに。絶賛発売中!



# WRC+ WORLD RALLY MAGAZINE PLUS

最新刊 2012 vol.01 発売日：2012年1月31日  
特別定価：1580円

[総力特集]  
**2012WRC  
パーフェクトガイド**

[第2特集]  
ペター・ソルベルグ  
「最後の決意」

好評発売中!!

▼バックナンバー

WRC PLUS



2011 vol.06  
[特集]  
**ランチア  
デルタ**  
[特別企画]  
トヨタがラリーに帰ってくる!  
PLAYBACK 2011  
発売日：2011年12月10日  
特別定価：1580円



2011 vol.05  
[特集]  
コリン・マクレー &  
リチャード・バーンス  
[特別企画]  
ラリー北海道  
10th Anniversary  
発売日：2011年10月12日  
特別定価：1580円



サンエイムック  
ラリーランチア  
インプレッション  
by 三好秀昌  
A4ワイド版116ページ  
発売日：2011年1月13日  
定価：1700円

世界ラリー選手権公認DVD



WRC2011  
SEASON 4  
(Rd.11~Rd.13)  
発売日：2011年12月24日  
定価：3980円



WRC2011  
SEASON 3  
(Rd.8~Rd.10)  
発売日：2011年10月21日  
定価：3980円



RALLY JAPAN  
2004-2010  
発売日：2011年9月30日  
定価：3980円

ラリー&クラシックス



vol.03  
「2Lターボ  
WRカーの時代」  
A4ワイド版196ページ  
発売日：2011年1月29日  
定価：1980円



vol.04  
「ラリーモンテカルロ  
100年の記憶」  
A4ワイド版148ページ  
発売日：2011年4月1日  
定価：1780円



vol.05  
「ランチアの矜持」  
A4ワイド版196ページ  
発売日：2011年7月14日  
定価：1980円

お求め方法

パソコンから  
<http://www.rallyplus.net>

電話から  
**03-5357-8802** 受付センター  
(平日10:00~17:30)

ケータイから



送料・手数料について  
■クレジットカード払いの場合  
送料：一回200円 手数料：無料  
■代金引換払いの場合  
送料：一回200円 手数料：300円  
ご注文金額が1000円以上の場合は、送料無料



株式会社三栄書房/販売部  
〒160-8547 東京都新宿区本塩町19  
TEL:03-5369-5112(平日10:00~17:30)